

FutureNet NXRシリーズ ユーザーズガイド GUI編

Ver.5.24.1J 対応版



目次

はじめに	5
第1章 本装置の概要	6
. 本装置の特長	7
. 各部の名称と機能 (NXR-120/C)	8
. 各部の名称と機能 (NXR-125/CX)	10
. 各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートなし)	12
. 各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートあり)	14
. 各部の名称と機能 (NXR-155/C-L)	16
. 各部の名称と機能 (NXR-155/C-XW)	18
. 各部の名称と機能 (NXR-230/C)	20
. 各部の名称と機能 (NXR-350/C)	22
. 各部の名称と機能 (NXR-1200)	24
XI . 動作環境	26
第2章 装置の設置	27
. 装置の設置に関する注意点	28
. 装置の設置 (NXR-120/C)	29
. 装置の設置 (NXR-125/CX)	30
. 装置の設置 (NXR-130/C)	31
. 装置の設置 (NXR-155/C-L)	32
. 装置の設置 (NXR-155/C-XW)	33
. 装置の設置 (NXR-230/C)	34
. 装置の設置 (NXR-350/C)	35
. 装置の設置 (NXR-1200)	36
第3章 コンピュータのネットワーク設定	37
. Windows Vista のネットワーク設定	38
. Windows 7 のネットワーク設定	39
. Macintosh のネットワーク設定	40
第4章 本装置へのログイン	41
. 本装置の GUI へのログイン	42
. 本装置の CLI へのログイン	43
. HTTP サーバの起動	47
. GUI で設定可能な項目	48
第5章 インタフェース設定	49
. Ethernet I/F	50
1. Ethernet	50
. PPP I/F	54
1. PPP アカウント	54
2. PPPoE	60

第6章 ネットワーク	61
. IPv4	62
1. スタティックルート	62
2. 固定ARP	63
3. NAT	64
. DHCP	69
1. DHCP ネットワーク	69
2. DHCP ホスト	72
3. DHCP リレー	72
DNS	73
DNS	73
WarpLink	74
WarpLink	74
NTP	75
NTP	75
第7章 VPN	76
. IPsec	77
1. IPsec トンネル	77
2. IPsec 全体設定	84
3. IPsec 認証設定	85
. L2TPv3	89
1. L2TPv3 接続設定	89
2. L2TPv3 全体設定	92
第8章 ファイアウォール	95
アクセスリスト	96
1. IPv4 アクセスリスト	96
第9章 ユーザインタフェース	98
. SSH	99
1. SSH サービス	99
2. SSH 鍵(netconf)	99
. NETCONF	100
1. NETCONF	100
. CRP	101
1. CRP グローバル	101
2. CRP クライアント	103

第10章 システム設定	104
システム設定	105
本装置のパスワード	105
ホスト名	105
ログ	106
1. システムログ	106
2. ログメール	107
設定情報	108
1. 設定の保存	108
2. 設定の復帰	108
3. 設定のリセット	109
ファームウェア	110
1. ファームウェアアップデート	110
内蔵時計	111
再起動	111
セッション数	112
第11章 運用機能	113
ネットワーク診断	114
1. Ping	114
2. Traceroute	114
パケットダンプ	115
1. パケットダンプ	115
2. パケットダンプ結果表示	116
ログ情報	117
1. システムログ	117
2. ブートログ	117
システム情報	118
1. システム情報	118
2. システムモニター	118
サポート情報	119
テクニカルサポート	119
サポート情報	119
付録 サポートについて	120
サポートについて	121

はじめに

ご注意

- 1 本装置の故障、誤動作、不具合、あるいは停電などの外部要因によって、通信の機会を逸したために生じた損害などの純粹経済損失につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 2 通信情報が漏洩した事による経済的、精神的損害につきましては、当社はいっさいその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 3 本書の内容の一部または全部を無断で転載、複写することを禁じます。
- 4 本書およびソフトウェア、ハードウェア、外観の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 5 本書の内容については万全を期しておりますが、万一ご不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきの点がありましたらご連絡ください。

商標の表示

「FutureNet」はセンチュリー・システムズ株式会社の登録商標です。

下記製品名等は米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows 7

下記製品名等は米国Apple Inc.の登録商標です。

Macintosh、Mac OS X

その他、本書で使用する各会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。

第1章

本装置の概要

第1章 本装置の概要

. 本装置の特長

FutureNet NXRシリーズの「製品概要」、「製品の特徴」、「仕様」、「利用例」、「オプション」等については、弊社のWebサイトを参照してください。

FutureNet NXR-120/C

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr120c.html>

FutureNet NXR-125/CX

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr125cx.html>

FutureNet NXR-130/C

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr130c.html>

FutureNet NXR-155/C-L

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr155cl.html>

FutureNet NXR-155/C-XW

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr155cxw.html>

FutureNet NXR-230/C

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr230c.html>

FutureNet NXR-350/C

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr350c.html>

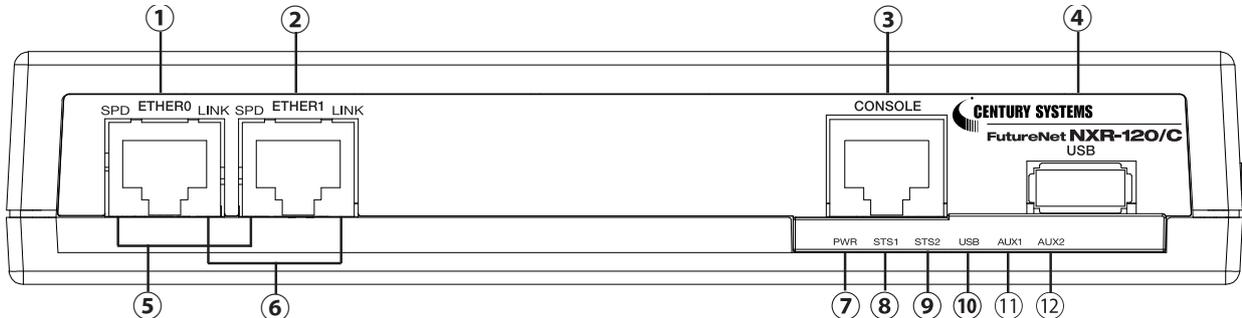
FutureNet NXR-1200

<http://www.centurysys.co.jp/products/router/nxr1200.html>

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-120/C)

製品前面 (NXR-120/C)



ETHER 0 ポート

主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

主に WAN 側ポートとして使用します。

CONSOLE ポート

CLI 接続の場合に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

USB ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信モジュールを挿入します。

SPD LED(緑 / 橙)

ETHERNET ポートの接続速度を示します。

10BASE-T モードで接続時	: ■
100BASE-TX モードで接続時	: ■
1000BASE-T モードで接続時	: ■

LINK LED(緑)

ETHER ポートの状態を示します。

Link Down 時	: ■
Link UP 時	: ■
データ通信時	: ■

PWR LED(青)

本装置の電源状態を示します。

電源投入時	: ■
-------	-----

STS1 LED(赤)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。

システム起動中	: ■
システム起動完了状態	: ■
ファームウェアのアップデート作業中	: ■

STS2 LED(緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

システム起動中	: ■
サービス起動中	: ■
サービス起動完了状態	: ■

ステータス LED が以下の状態になると、本装置へのアクセスが可能になります。

STS1 LED	: ■
STS2 LED	: ■

USB LED(緑)

USB ステータスを示します。

USB デバイス装着時	: ■
USB デバイス未装着時	: ■

AUX1 LED(緑)

AUX2 LED(緑)

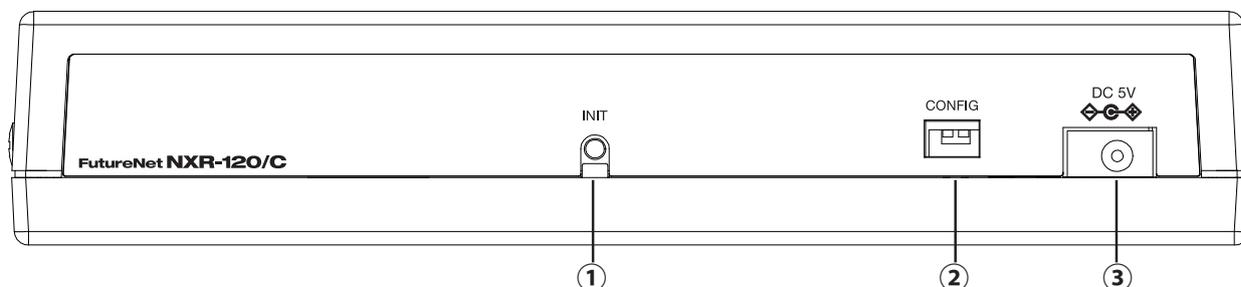
データ通信端末装着時に、電波状況を表示します。
電波状況の取得周期の設定等については、ユーザーガイド CLI 編を参照してください。

	AUX1	AUX2
データ通信端末未装着時:	■	■
圏外(およびunknown) :	■	■
圏内 Signal Level 1 :	■	■
Signal Level 2 :	■	■
Signal Level 3 :	■	■

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-120/C)

製品背面 (NXR-120/C)



INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

1. INITボタンを押しながら電源を投入します。
2. STS1 LED が下記の状態になるまで、INIT ボタンを押したままにしておきます。
点灯 消灯 点灯
3. STS1 LED が再度点灯したら、INIT ボタンを放します。STS1 LED が消灯し、本装置が工場出荷設定で起動します。

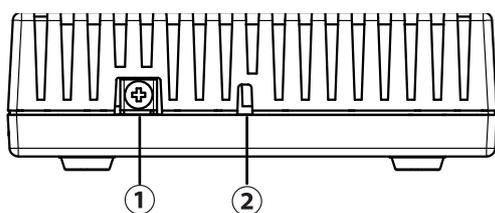
CONFIG

本製品では使用しません。両方のスイッチが下に位置している状態で使用してください。

DC 5V 電源コネクタ

製品付属の AC アダプタを接続します。

製品側面 (NXR-120/C)



FG 端子

保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

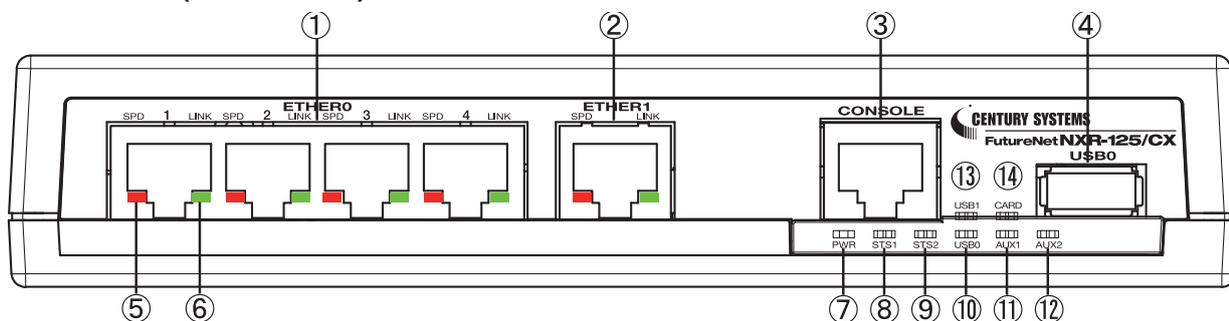
セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-125/CX)

製品前面 (NXR-125/CX)



ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の 4 ポートハブです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

CONSOLE ポート

CLI 接続の際に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

USB0 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

SPD LED(赤 / 緑)

ETHER ポートの接続速度を示します。

10BASE-T モードで接続時 :
100BASE-TX モードで接続時 :
1000BASE-T モードで接続時 :

LINK LED(緑)

ETHER ポートのリンク状態を示します。

Link Down 時 :
Link UP 時 :

PWR LED(青)

本装置の電源状態を示します。

電源 ON 時 :

STS1 LED(赤 / 緑)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :
システム起動中 :
ファームウェア更新中 : 

指定した PPP または tunnel の状態を示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

接続時 :
切断状態時 :

STS2 LED(緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :
システム起動中 : 
システム起動後 (ログイン可能状態) :
:

USB0 LED(緑)

USB デバイス 0 のステータスを示します。

USB デバイス 0 の接続時 :
USB デバイス 0 の未接続時 :

AUX1 LED(緑) / AUX2 LED(緑)

データ通信端末未装着時に、電波状況を表示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

AUX1 AUX2
データ通信端末未装着時 :
圏外 (および unknown) :
圏内 Signal Level 0-1 :
Signal Level 2 :
Signal Level 3 :

指定した PPP または tunnel の状態を示します。

接続時 :
切断状態時 :

USB1 LED(緑)

USB デバイス 1 のステータスを示します。

USB デバイス 1 の接続時 :
USB デバイス 1 の未接続時 :

CARD LED

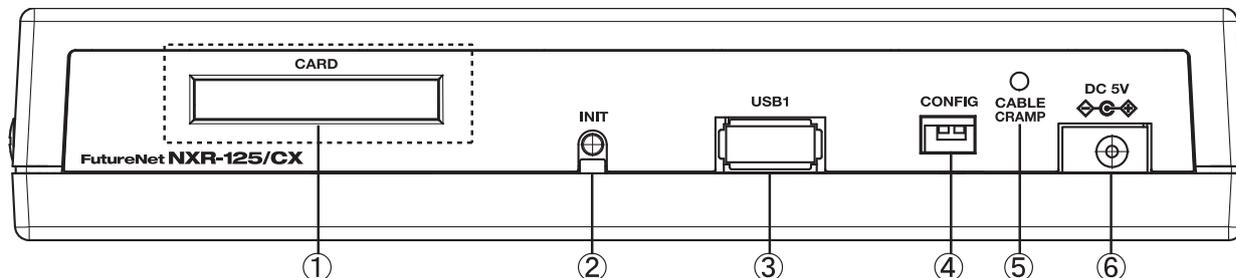
カードのステータスを表示します。

カードの接続時 :
カードの未接続時 :

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-125/CX)

製品背面 (NXR-125/CX)



CARD スロット

対応するカードを接続します。
カードを使用しない場合は、異物や埃の混入を防ぐために、同梱のシールを図の点線枠の部分に貼って、CARD スロットを塞いでください。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

USB1 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

CONFIG

本製品では使用しません。両方のスイッチが下に位置している状態で使用してください。

CABLE CRAMP

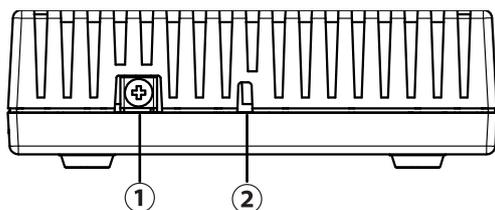
AC アダプタのケーブルが不意に引っ張られても、DC プラグが抜けないようにすることが出来ます。クリップでケーブルを挟み、クリップと本装置をネジで固定します。



DC 5V 電源コネクタ

製品付属の AC アダプタを接続します。

製品側面 (NXR-125/CX)



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

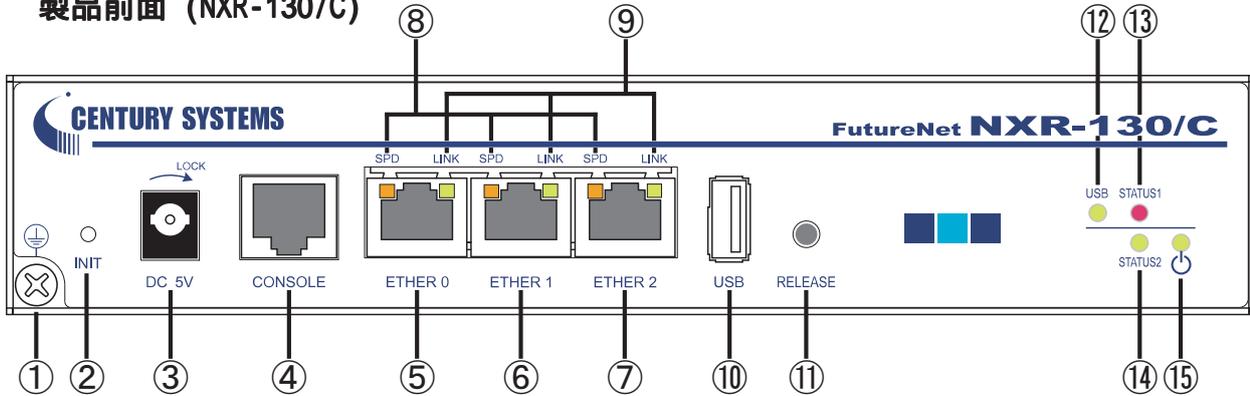
セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートなし)

製品前面 (NXR-130/C)



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するとき
に使用します。

1. Init ボタンを押しながら電源を投入します。
2. STATUS1 LED が下記の状態になるまで、Init ボタンを押したままにしておきます。
点灯 消灯 点灯
3. STATUS1 LED が再度点灯したら、Init ボタンを放します。STATUS1 LED が消灯し、本装置が工場出荷設定で起動します。

DC5V 電源コネクタ (ロック機構付き)

製品付属の AC アダプタを接続します。
電源コネクタの溝に、DC プラグのツメを合わせて、
右に回してください。電源コードがロックされます。
電源コードを外す時は、DC プラグ部分を持って左
に戻してから抜いてください。

本装置をご使用の際は必ず、電源コードをロック
してご使用ください。

CONSOLE ポート

CLI 接続の場合に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

ETHER 0 ポート

主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

主に WAN 側ポートとして使用します。

ETHER 2 ポート

主に DMZ ポートとして使用します。

本装置の各ETHERポートは、全てGigabit Ethernet
に対応しています。別セグメントを接続するポ
ートとして使用可能です。
また、ポートはAuto-MDI/MDIX対応です。
Ethernet規格のLANケーブルを接続してください。

SPEED LED (緑 / 橙)

ETHERNET ポートの接続速度を表示します。

- 10BASE-T モードで接続時 : ■
- 100BASE-TX モードで接続時 : ■
- 1000BASE-T モードで接続時 : ■

LINK/ACT LED (緑)

ETHERNET ポートの接続状態を表示します。

- Link Down 時 : ■
- Link UP 時 : ■
- データ通信時 : ■

USB ポート

USB Flash メモリ、またはUSB タイプのデータ通
信モジュールを挿入します。

第1章 本装置の概要

・各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートなし)

RELEASE ボタン

USB flashメモリを取り外すときに使用します。
本装置からUSB flashメモリを取り外すときは、以下の手順で操作してください。

1. RELEASE ボタンの長押し(約3秒)
2. USB LEDの消灯を確認
3. USB flashメモリの取り外し

USB LED (緑)

USB ステータスを表示します。

- USB デバイス装着時 : ●
USB デバイス未装着時 : ●

STATUS1 LED (赤)

本装置のシステム起動時のステータスを表示します。

- システム起動中 : ●
システム起動完了状態 : ●
ファームウェアのアップデート作業中 : ☀

これら以外の状態で、STATUS1 が点滅している時はシステム異常が起きておりますので、弊社までご連絡ください。

STATUS2 LED (緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを表示します。

- システム起動中 : ●
サービス起動中 : ☀
サービス起動完了状態 : ●

STATUS LED が以下の状態になると、本装置へのアクセスが可能になります。

- STATUS1 LED : ●
STATUS2 LED : ●

POWER LED (緑)

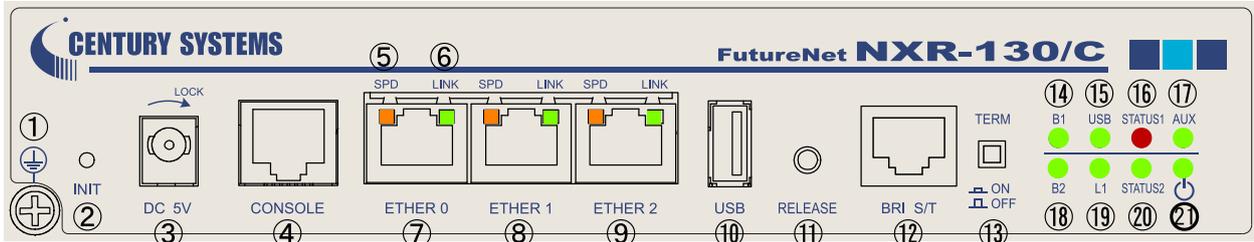
本装置の電源状態を表示します。

- 電源投入時 : ●

第1章 本装置の概要

・各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートあり)

製品前面



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。
必ずアース線を接続してください。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

1. Init ボタンを押しながら電源を投入します。
2. STATUS1 LED が下記の状態になるまで、Init ボタンを押したままにしておきます。
点灯 消灯 点灯
3. STATUS1 LED が再度点灯したら、Init ボタンを放します。STATUS1 LED が消灯し、本装置が工場出荷設定で起動します。

DC5V 電源コネクタ (ロック機構付き)

製品付属の AC アダプタを接続します。
電源コネクタの溝に、DC プラグのツメを合わせて、右に回してください。電源コードがロックされます。電源コードを外す時は、DC プラグ部分を持って左に戻してから抜いてください。

本装置をご使用の際は必ず、電源コードをロックしてご使用ください。

CONSOLE ポート

CLI 接続の場合に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

SPD LED (/)

ETHERNET ポートの接続速度を表示します。
10BASE-T モードで接続時 :
100BASE-TX モードで接続時 :
1000BASE-T モードで接続時 :

LINK LED (緑)

ETHERNET ポートの接続状態を表示します。
Link Down 時 :
Link UP 時 :
データ通信時 : / (点滅)

ETHER 0 ポート

主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

主に WAN 側ポートとして使用します。

ETHER 2 ポート

主に DMZ ポートとして使用します。

本装置の各ETHERポートは、全てGigabit Ethernetに対応しています。別セグメントを接続するポートとして使用可能です。

また、ポートはAutoMDI/MDI-X対応です。Ethernet規格のLANケーブルを接続してください。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-130/C: ISDN ポートあり)

USB ポート

USB Flash メモリ、またはUSB タイプのデータ通信モジュールを挿入します。

RELEASE ボタン

USB flashメモリを取り外すときに使用します。本装置からUSB flash メモリを取り外すときは、以下の手順で操作してください。

1. RELEASE ボタンの長押し(約3秒)
2. USB LED の消灯を確認
3. USB flash メモリの取り外し

ISDN BRI S/T点(RJ-45)

このポートと外部DSUをISDNケーブルで接続します。

S/T点終端抵抗ON/OFFスイッチ

「ISDN S/T点ポート」接続時の終端抵抗のON/OFFを切り替えます。

外部DSUを接続している場合は、本装置を含めていずれか1つの機器の終端抵抗をONにしてください。

B1 LED ()

B2 LED ()

ISDN回線交換モードの場合

接続時 (64kbps)	:	B1 () B2 ()
接続時 (128kbps)	:	B1 () B2 ()
切断時	:	B1 () B2 ()

専用線モードの場合

回線の接続状態に関わらず、設定により点灯します。

設定時 (64kbps)	:	B1 () B2 ()
設定時 (128kbps)	:	B1 () B2 ()

USB LED ()

USBステータスを表示します。

USB flashメモリ装着時	:
USB flashメモリ未装着時	:

STATUS1 LED ()

本装置のシステム起動時のステータスを表示します。

システム起動中	:
システム起動完了状態	:
ファームウェアのアップデート作業中	:
	/ (点滅)

これら以外の状態で、STATUS1が点滅している時はシステム異常が起きていますので、弊社までご連絡ください。

AUX LED ()

本装置では使用しません。

L1 LED ()

本装置のISDN BRI S/T点ポートがリンクアップしているときに点灯します。

STATUS2 LED ()

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを表示します。

システム起動中	:
サービス起動中	:
サービス起動完了状態	:
	/ (点滅)

STATUS LEDが以下の状態になると、本装置へのアクセスが可能になります。

STATUS1 LED	:
STATUS2 LED	:

21 POWER LED ()

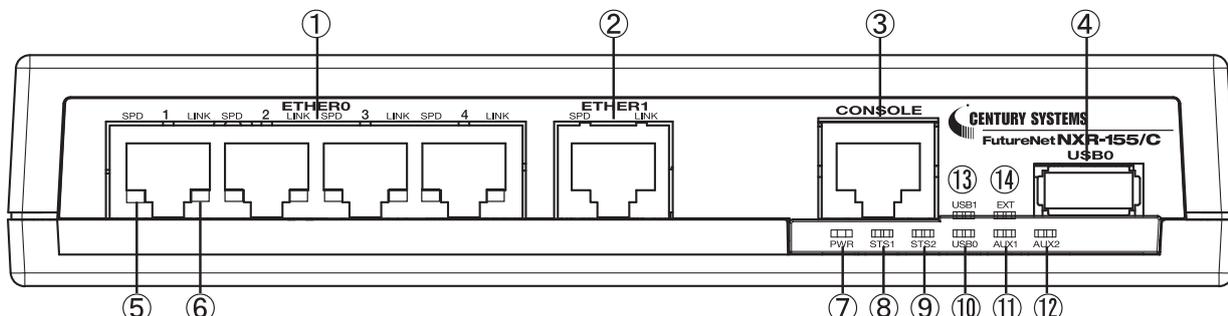
本装置の電源状態を表示します。

電源投入時	:
-------	---

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-155/C-L)

製品前面 (NXR-155/C-L)



ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の 4 ポートハブです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

CONSOLE ポート

CLI 接続の際に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

USB0 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

SPD LED(赤 / 緑)

ETHER ポートの接続速度を示します。
10BASE-T モードで接続時 :
100BASE-TX モードで接続時:
1000BASE-T モードで接続時:

LINK LED(緑)

ETHER ポートのリンク状態を示します。
Link Down 時 :
Link UP 時 :

PWR LED(青)

本装置の電源状態を示します。
電源 ON 時 :

STS1 LED(赤 / 緑)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。
電源 ON 時 :
システム起動中 :
ファームウェア更新中 : * (点滅)

指定した PPP または tunnel の状態を示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

接続時 :
切断状態時 :

STS2 LED(緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :
システム起動中 : * (点滅)
システム起動後(ログイン可能状態)
:

USB0 LED(緑)

USB デバイス 0 のステータスを示します。
USB デバイス 0 の接続時 :
USB デバイス 0 の未接続時 :

AUX1 LED(緑)/ AUX2 LED(緑)

データ通信端末装着時に、電波状況を表示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

AUX1 AUX2
データ通信端末未装着時 :
圏外 (および unknown) :
圏内 Signal Level 0-1 :
Signal Level 2 :
Signal Level 3 :

指定した PPP または tunnel の状態を示します。

接続時 :
切断状態時 :

USB1 LED(緑)

USB デバイス 1 のステータスを示します。
USB デバイス 1 の接続時 :
USB デバイス 1 の未接続時 :

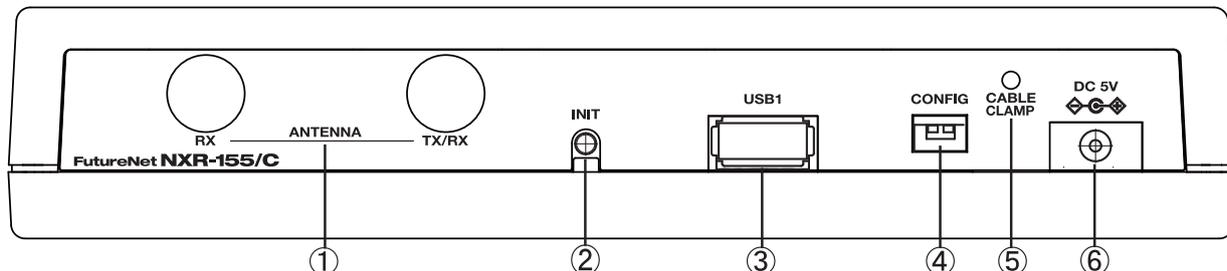
EXT LED

内蔵通信モジュールのステータスを表示します。
通常動作時 :
異常発生時やリセット時 :

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-155/C-L)

製品背面 (NXR-155/C-L)



ANTENNA RX, ANTENNA TX/RX

対応するアンテナを装着します。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

USB1 ポート

USB Flash メモリ、またはUSB タイプのデータ通信端末を挿入します。

CONFIG

本製品では使用しません。両方のスイッチが下に位置している状態で使用してください。

CABLE CRAMP

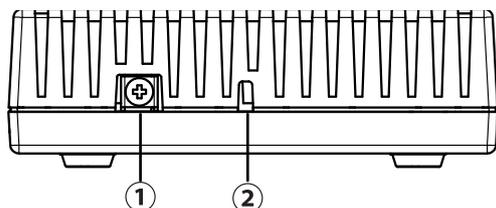
ACアダプタのケーブルが不意に引っ張られても、DCプラグが抜けないようにすることが出来ます。クリップでケーブルを挟み、クリップと本装置をネジで固定します。



DC 5V 電源コネクタ

製品付属のACアダプタを接続します。

製品側面 (NXR-155/C-L)



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。必ずアース線を接続してください。

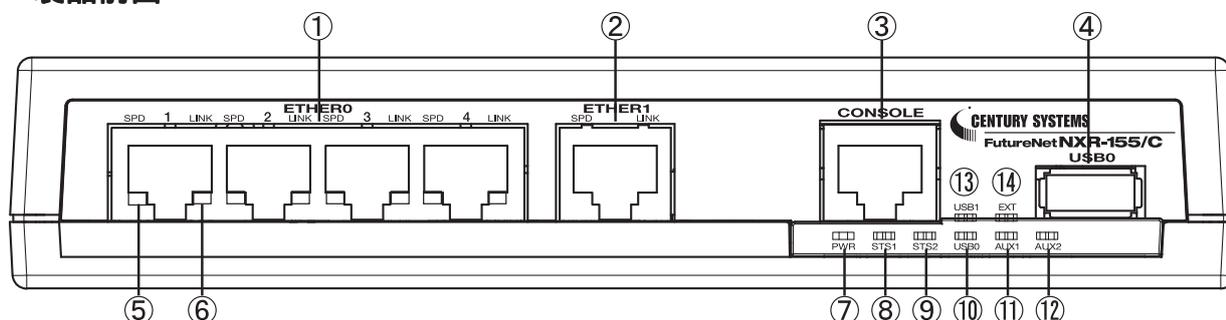
セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-155/C-XW)

製品前面



ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の 4 ポートハブです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

CONSOLE ポート

CLI 接続の際に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

USB0 ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

SPD LED(赤 / 緑)

ETHER ポートの接続速度を示します。

10BASE-T モードで接続時 :
100BASE-TX モードで接続時 :
1000BASE-T モードで接続時 :

LINK LED(緑)

ETHER ポートのリンク状態を示します。

Link Down 時 :
Link UP 時 :

PWR LED(青)

本装置の電源状態を示します。

電源 ON 時 :

STS1 LED(赤 / 緑)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :
システム起動中 :
ファームウェア更新中 : * (点滅)

指定した PPP または tunnel の状態を示します。
設定は、第 6 章 global node の system led (ユーザーズガイド CLI 編) を参照してください。

接続時 :
切断状態時 :

STS2 LED(緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :
システム起動中 : * (点滅)
システム起動後(ログイン可能状態)
:

USB0 LED(緑)

USB デバイス 0 のステータスを示します。

USB デバイス 0 の接続時 :
USB デバイス 0 の未接続時 :

AUX1 LED(緑) / AUX2 LED(緑)

データ通信端末未装着時に、電波状況を表示します。
設定は、第 6 章 global node の system led (ユーザーズガイド CLI 編) を参照してください。

AUX1 AUX2
データ通信端末未装着時 :
圏外 (および unknown) :
圏内 Signal Level 0-1 :
Signal Level 2 :
Signal Level 3 :

指定した PPP または tunnel の状態を示します。

接続時 :
切断状態時 :

USB1 LED(緑)

USB デバイス 1 のステータスを示します。

USB デバイス 1 の接続時 :
USB デバイス 1 の未接続時 :

EXT LED

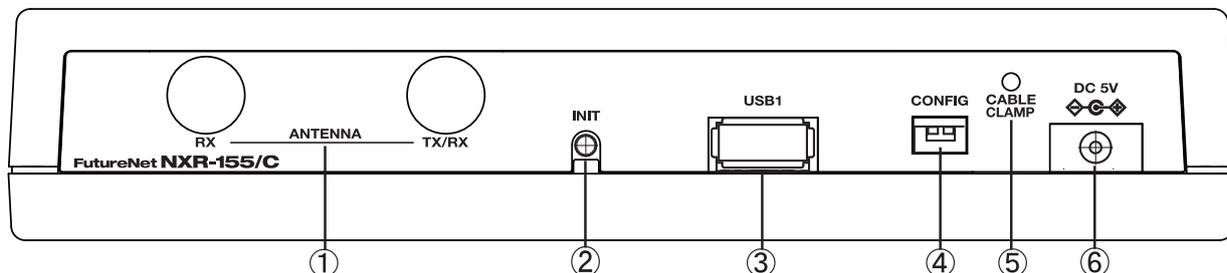
内蔵通信モジュールのステータスを表示します。

通常動作時 :
異常発生時やりセット時 :

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-155/C-XW)

製品背面



ANTENNA RX, ANTENNA TX/RX

対応するアンテナを装着します。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

USB1 ポート

USB Flash メモリ、またはUSB タイプのデータ通信端末を挿入します。

CONFIG

本製品では使用しません。両方のスイッチが下に位置している状態で使用してください。

CABLE CRAMP

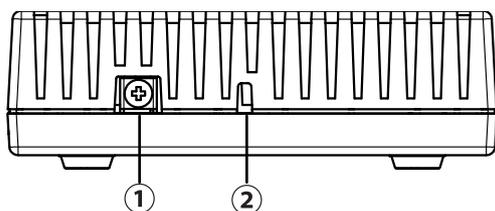
ACアダプタのケーブルが不意に引っ張られても、DCプラグが抜けないようにすることが出来ます。クリップでケーブルを挟み、クリップと本装置をネジで固定します。



DC 5V 電源コネクタ

製品付属のACアダプタを接続します。

製品側面



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。必ずアース線を接続してください。

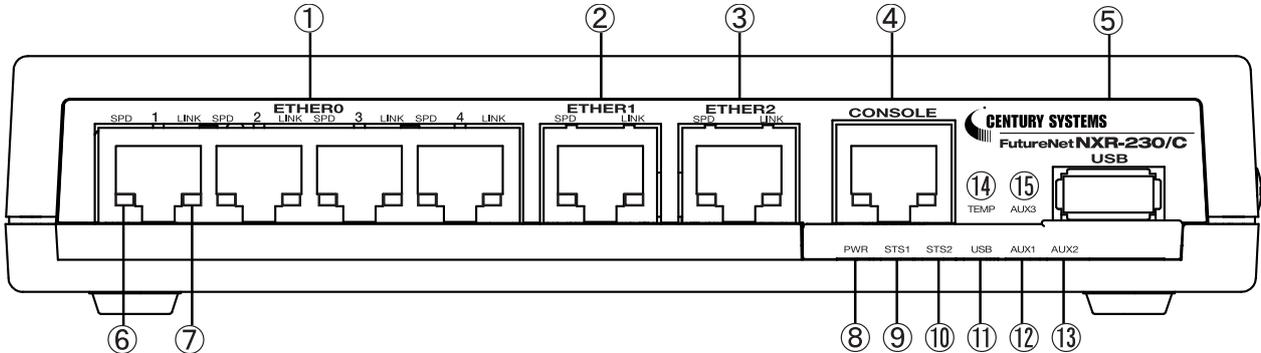
セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-230/C)

製品前面



ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の 4 ポートハブです。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に WAN 側ポートとして使用します。

ETHER 2 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポートです。主に DMZ ポートとして使用します。

CONSOLE ポート

CLI 接続の際に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

USB ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信端末を挿入します。

SPD LED(赤 / 緑)

ETHER ポートの接続速度を示します。

- 10BASE-T モードで接続時 :
- 100BASE-TX モードで接続時:
- 1000BASE-T モードで接続時:

LINK LED(緑)

ETHER ポートのリンク状態を示します。

- Link Down 時 :
- Link UP 時 :

PWR LED(青)

本装置の電源状態を示します。

- 電源 ON 時 :

STS1 LED(赤 / 緑)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。

- 電源 ON 時 :
- システム起動中 :
- ファームウェア更新中: * (点滅)

指定した PPP または tunnel の状態を示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

- 接続時 :
- 切断状態時 :

STS2 LED(緑)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

- 電源 ON 時 :
- システム起動中 : * (点滅)
- システム起動後(ログイン可能状態) :

USB LED(緑)

USB デバイス 0 のステータスを示します。

- USB デバイス 0 の接続時 :
- USB デバイス 0 の未接続時 :

AUX1 LED(緑)/ AUX2 LED(緑)

データ通信端末装着時に、電波状況を表示します (設定は、第 6 章 global node の system led を参照)。

- | | AUX1 | AUX2 |
|---------------------|------|------|
| データ通信端末未装着時 | : | : |
| 圏外 (および unknown) | : | : |
| 圏内 Signal Level 0-1 | : | : |
| Signal Level 2 | : | : |
| Signal Level 3 | : | : |

指定した PPP または tunnel の状態を示します。

- 接続時 :
- 切断状態時 :

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-230/C)

TEMP LED(赤)

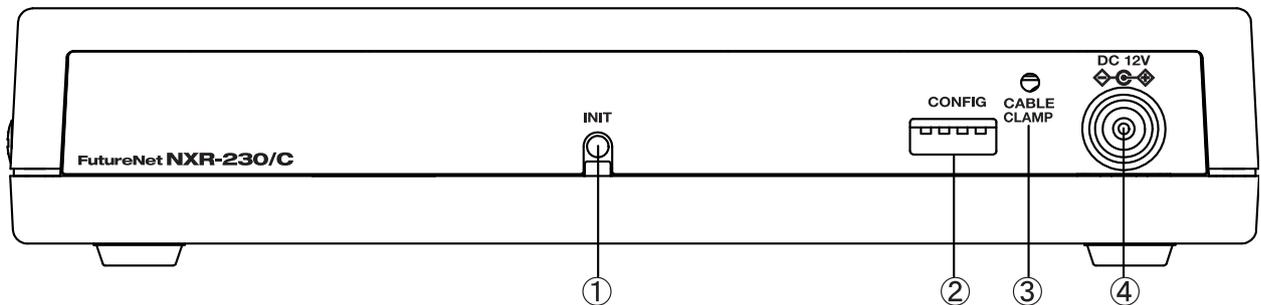
本装置の内部温度を定期的 (60 秒毎) にチェックし、温度状態を表示します。

~ 0		: critical
0 ~ 5	* (点滅)	: warning Low
5 ~ 80		: normal
80 ~ 85	* (点滅)	: warning High
85 ~		: critical

AUX3 LED

本装置では使用しません。

製品背面



INIT

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使用します。

CONFIG

本製品では使用しません。両方のスイッチが下に位置している状態で使用してください。

CABLE CLAMP

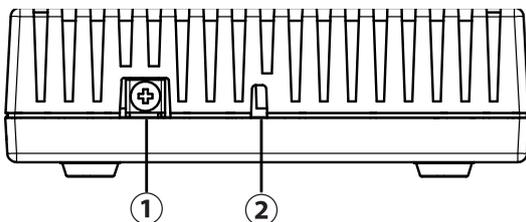
ACアダプタのケーブルが不意に引っ張られても、DCプラグが抜けないようにすることが出来ます。クリップでケーブルを挟み、クリップと本装置をネジで固定します。



DC 12V

製品付属の AC アダプタを接続します。

製品側面



FG(アース) 端子

保安用接続端子です。必ずアース線を接続してください。

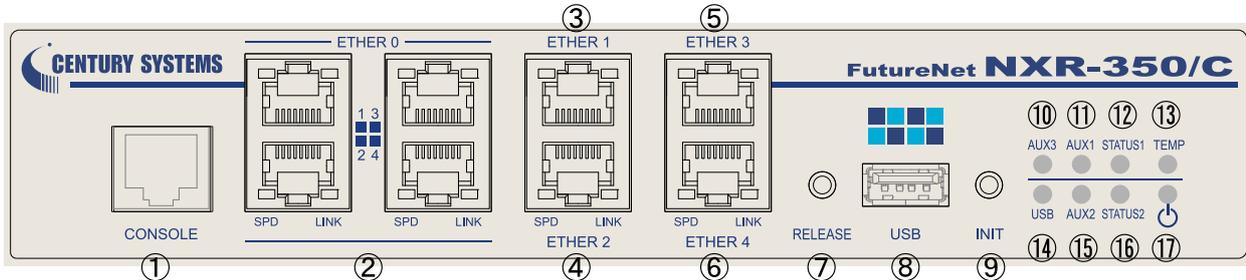
セキュリティスロット

ケンジントンロックに対応しています。

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-350/C)

製品前面



CONSOLE ポート

CLI 接続の際に使用します。
Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。

ETHER 0 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の 4 ポートハブ
です。主に LAN 側ポートとして使用します。

ETHER 1 ポート

ETHER 2 ポート

ETHER 3 ポート

ETHER 4 ポート

10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-T 対応の Ethernet ポー
トです。主に WAN 側ポートや DMZ ポートとして使用しま
す。

RELEASE ボタン

USB flash メモリを取り外すときに使用します。
本装置から USB flash メモリを取り外すときは、以下
の手順で操作してください。

1. RELEASE ボタンの長押し(約 3 秒)
2. USB LED の消灯を確認
3. USB flash メモリの取り外し

USB ポート

USB Flash メモリ、または USB タイプのデータ通信モ
ジュールを挿入します。

INIT ボタン

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときに使
用します。

1. Init ボタンを押しながら電源を投入します。
2. STATUS1 LED が下記の状態になるまで、Init ボタン
を押したままにしておきます。
* (点滅)
3. STATUS1 LED が赤点灯したら、Init ボタンを放しま
す。STATUS1 LED が消灯し、本装置が工場出荷設定で
起動します。

AUX3 LED(緑)

ECC メモリでエラーを検出した場合に、ステータスを
表示します。

- 通常は消灯しています。
- LED 消灯中、ECC メモリで 1 ビットエラー検出時に 24
時間点灯します。
- LED 点灯中、1 ビットエラーを検出した場合、さらに 24
時間点灯します。
- LED 消灯中、ECC メモリで 2 ビット以上のエラー検出
時に点滅(fast)します。
- LED 点灯中、ECC メモリで 2 ビット以上のエラー検出
時に点滅(fast)します。
- LED 点滅中、1 ビットエラーを検出しても点滅のまま
です。

AUX1 LED(緑)/ AUX2 LED(緑)

データ通信端末装着時に、電波状況を表示します(設定
は、第 6 章 global node の system led を参照)。

	AUX1	AUX2
データ通信端末未装着時	:	:
圏外 (および unknown)	:	:
圏内 Signal Level 0-1	:	:
Signal Level 2	:	:
Signal Level 3	:	:

指定した PPP または tunnel の状態を示します。

接続時	:
切断状態時	:

STATUS1 LED(緑 / 赤)

本装置のシステム起動時のステータスを示します。

電源 ON 時	:
	* (点滅)
システム起動時	:
システム起動中	:
ファームウェア更新中:	* (点滅)

第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-350/C)

TEMP LED(赤)

本装置の内部温度を定期的 (60 秒毎) にチェックし、温度状態を表示します。

~ -4		: critical
-4 ~ -2	* (点滅)	: warning Low
-2 ~ 52		: normal
52 ~ 54	* (点滅)	: warning High
54 ~		: critical

詳細は、ユーザズガイドを参照してください。

USB LED(緑)

USB デバイスのステータスを示します。

USB デバイスの接続時 :

USB デバイスの未接続時 :

STATUS2 LED(緑 / 赤)

本装置のシステムおよび、サービス起動時のステータスを示します。

電源 ON 時 :

システム起動時 :

システム起動中 : * (点滅)

システム起動後(ログイン可能状態)

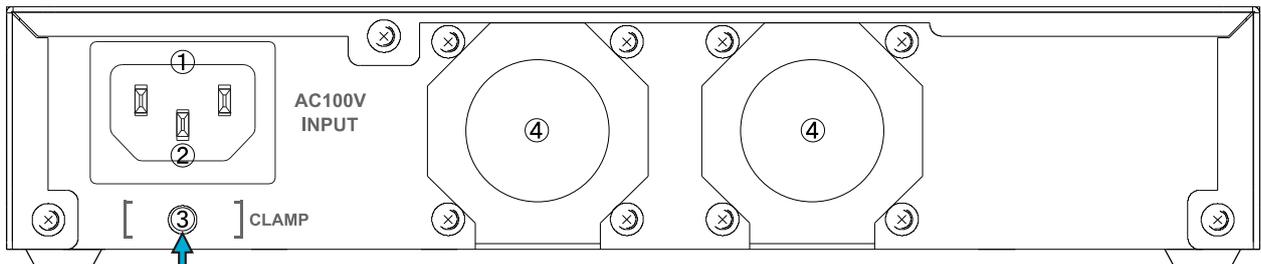
:

POWER LED(緑 / 赤)

本装置の電源状態を表示します。

電源投入時 :

製品背面



AC100V INPUT

付属の電源ケーブルを差し込んでください。

FG (アース) 端子

保安用接続端子です。

CLAMP

付属のケーブルクランプを挿し込んでください (上図を参照してください)。

電源ケーブルが不意に引っ張られても抜けないように、電源ケーブルをケーブルクランプで固定します (左図を参照してください)。

冷却ファン

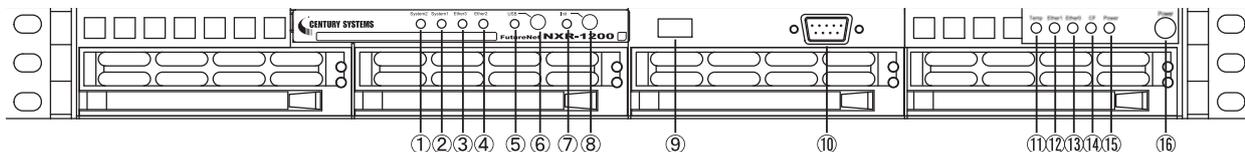
本装置では、強制空冷方式を採用しています。



第1章 本装置の概要

各部の名称と機能 (NXR-1200)

製品前面(NXR-1200)



ランプ表示 凡例

消灯時 : 、点灯時 : 、点滅時 : *

SYSTEM 2 LED ()

システムの起動状態を示します。

システム起動中 : *

システム起動後(ログイン可能状態) :

SYSTEM 1 LED ()

使用しません。

Ether 3 LED ()、 Ether 2 LED ()

Ether 1 LED ()、 Ether 0 LED ()

各 Ether ポートの状態を示します。

Link UP :

Link DOWN :

データ通信中 : *

USB Status LED ()

USB フラッシュメモリの接続状態を表示します。

接続時 : *

動作状態 :

「USB スイッチ」による取り外し操作時

: *

USB スイッチ

本装置から、USB フラッシュメモリを取り外すときに使用します。以下の手順で操作してください。

1. USB スイッチの長押し(約3秒)
2. USB LED の消灯を確認
3. USB フラッシュメモリの取り外し

Init Status LED ()

起動状態を表示します。

起動中 : *

「Init スイッチ」で初期設定にて起動中 :

起動完了時 :

Init スイッチ

本装置を工場出荷時の設定に戻して起動するときを使用します。

1. Init スイッチを押しながら電源を投入します。
2. Init Status LED が下記の状態になるまで、Init スイッチを押したままにしておきます。
点灯 消灯 点灯
3. Init Status LED が再度点灯したら、Init スイッチを放します。Init Status LED が消灯し、本装置が工場出荷設定で起動します。

USB インタフェース

オプションの USB フラッシュメモリを接続します。センチュリー・システムズがサポートする USB フラッシュメモリを使用してください。

RS-232 ポート(D-Sub 9 ピン)

本装置に CLI 接続するためのコンソールポートです。

Temp LED ()

温度状態を表示します。

本装置の内部温度が一定以上になった時 :

CF LED ()

搭載している CF カードの使用状態を表示します。

CF へのアクセス時 :

Power LED ()

電源の状態を表示します。

電源が投入されている状態 :

Power スイッチ

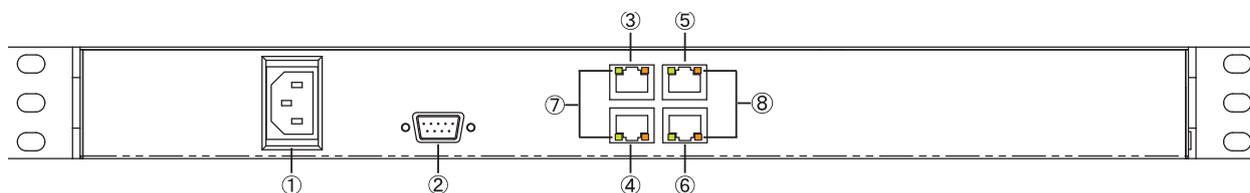
本装置の停止中にスイッチを押すと、本装置が起動します。

本装置の稼働中にスイッチを短時間押すと、正常終了します。また4秒以上スイッチを押すと、強制終了します。

第1章 本装置の概要

. 各部の名称と機能 (NXR-1200)

製品背面 (NXR-1200)



電源ケーブル差し込み口

付属の電源ケーブルを差し込んでください。

RS-232 ポート (D-Sub 9 ピン)

使用しません。

Ether0 ポート (RJ-45)

Ether1 ポート (RJ-45)

Ether2 ポート (RJ-45)

Ether3 ポート (RJ-45)

Ethernet 規格の LAN ケーブルを接続します。ポートは AutoMDI/MDI-X 対応です。

LINK ランプ ()

Ether ポートのリンク状態を表示します。

Link DOWN :

Link UP :

データ送受信時 : *

速度表示ランプ (/)

Ethernet の接続速度を表示します。

10Base-T モード :

100Base-TX モード :

1000Base-T モード :

本製品をお使いいただくには、以下の環境を満たしている必要があります。

ハードウェア環境

- ・本製品に接続するコンピュータの全てに、LAN インタフェースがインストールされていること。
- ・ADSL モデム /CATV モデム /ONU に、10BASE-T、100BASE-TX または 1000BASE-T のインターフェースが搭載されていること。
- ・本製品と全てのコンピュータを接続するためのハブやスイッチングハブが用意されていること。
- ・本製品と全てのコンピュータを接続するために必要な種類のネットワークケーブルが用意されていること。

ソフトウェア環境

- ・TCP/IP を利用できる OS がインストールされていること。
- ・接続されている全てのコンピュータの中で少なくとも1台に、ブラウザがインストールされていること。弊社では Internet Explorer 9 で動作確認を行っています。

なおサポートにつきましては、本製品固有の設定項目と本製品の設定に関する OS 上の設定に限らせていただきます。

OS 上の一般的な設定やパソコンにインストールされた LAN ボード / カードの設定、各種アプリケーションの固有の設定等のお問い合わせについてはサポート対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

第2章

装置の設置

第2章 装置の設置

・装置の設置に関する注意点

本装置の各設置方法について説明します。

下記は設置に関する注意点です。よくご確認いただいてから設置してください。

注意！

本装置は直射日光が当たるところや、温度の高いところには設置しないようにしてください。
内部温度が上がり、動作が不安定になる場合があります。

注意！

ACアダプタのプラグを本体に差し込んだ後にACアダプタのケーブルを左右および上下に引っ張らず、
緩みがある状態にしてください。
抜き差しもケーブルを引っ張らず、コネクタを持って行ってください。
また、ACアダプタのケーブルを足などで引っ掛けてプラグ部に異常な力が掛からないように配線にご注
意ください。

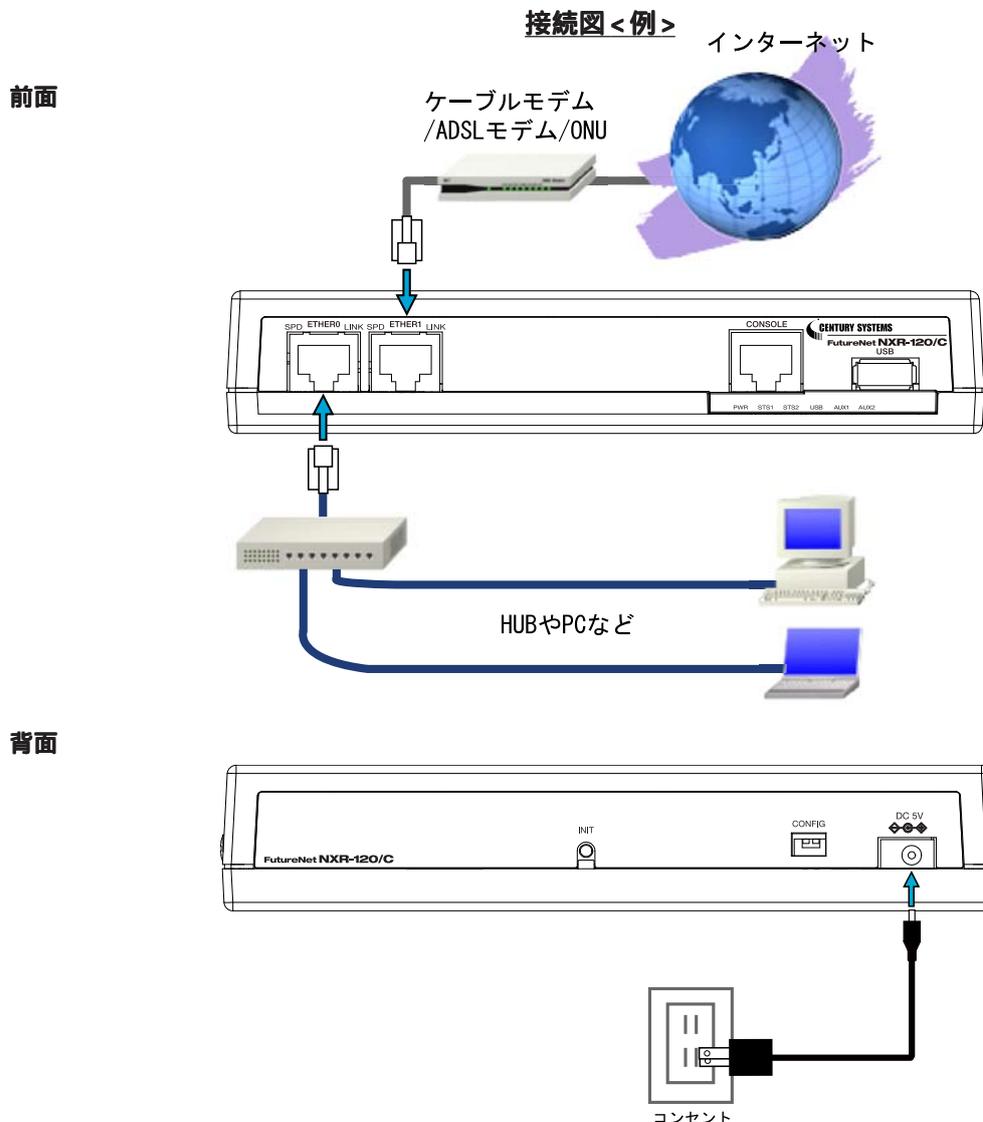
注意！

本装置側でも各ポートでARP tableを管理しているため、PCを接続しているポートを変更するとそのPC
から通信ができなくなる場合があります。このような場合は、本装置側のARP tableが更新されるまで
(数秒～数十秒)通信できなくなりますが、故障ではありません。

第2章 装置の設置

1. 装置の設置 (NXR-120/C)

NXR-120/C と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が「OFF」になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にあるETHER 1ポートと、xDSL/ケーブルモデムやONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にあるETHER 0ポートとPCをLANケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

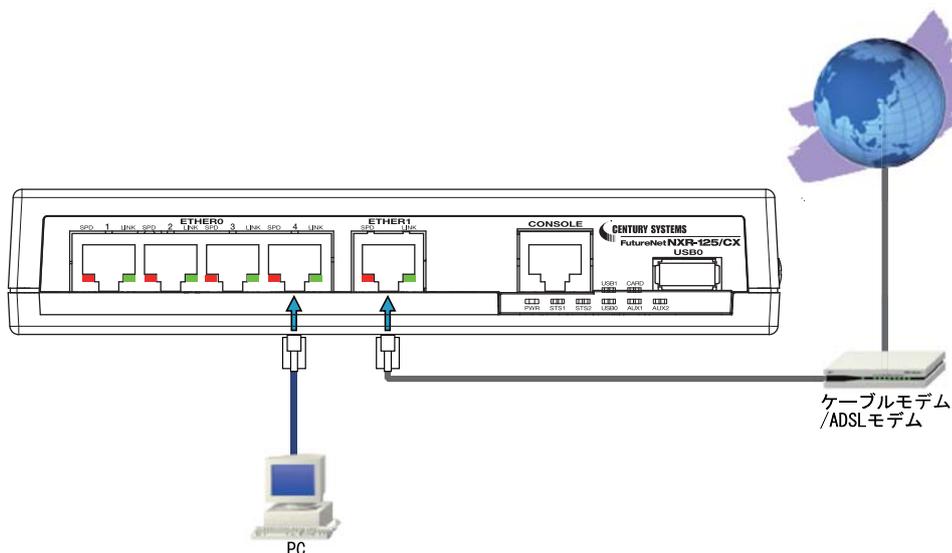
第2章 装置の設置

1. 装置の設置 (NXR-125/CX)

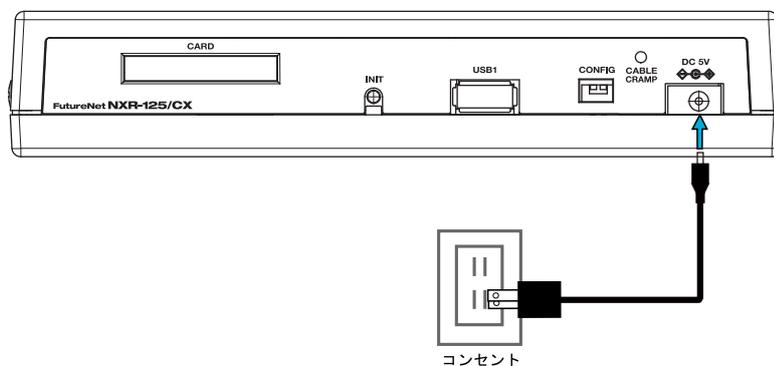
NXR-125/CX と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 <例>

前面



背面



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が「OFF」になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にあるETHER 1ポートと、ADSLモデム/ケーブルモデム/ONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にあるETHER 0ポートと、HUBやPCをLANケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

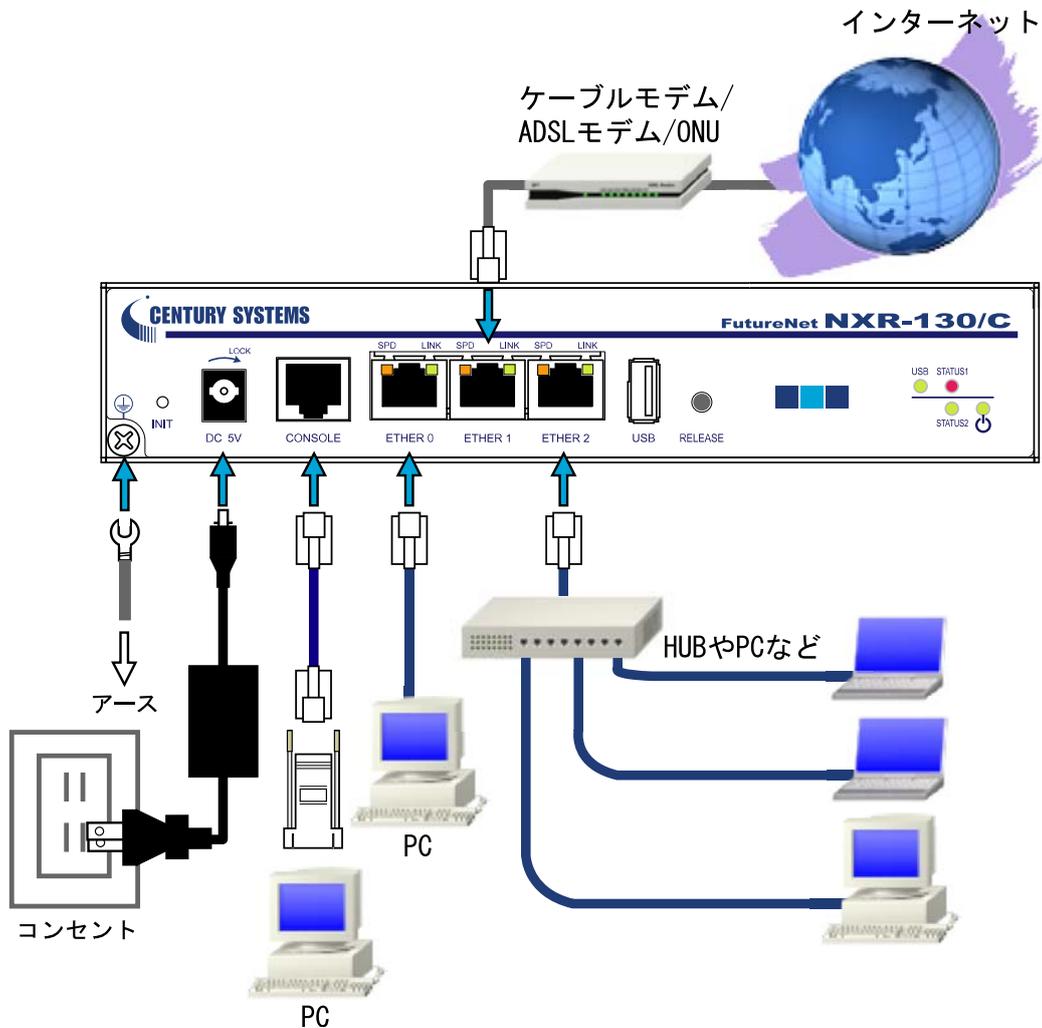
本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

第2章 装置の設置

. 装置の設置 (NXR-130/C)

NXR-130/C と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図<例>



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が「OFF」になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にあるETHER 1ポートと、xDSLモデム/ケーブルモデム/ONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にあるETHER 0ポート、ETHER 2ポートと、PCをLANケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

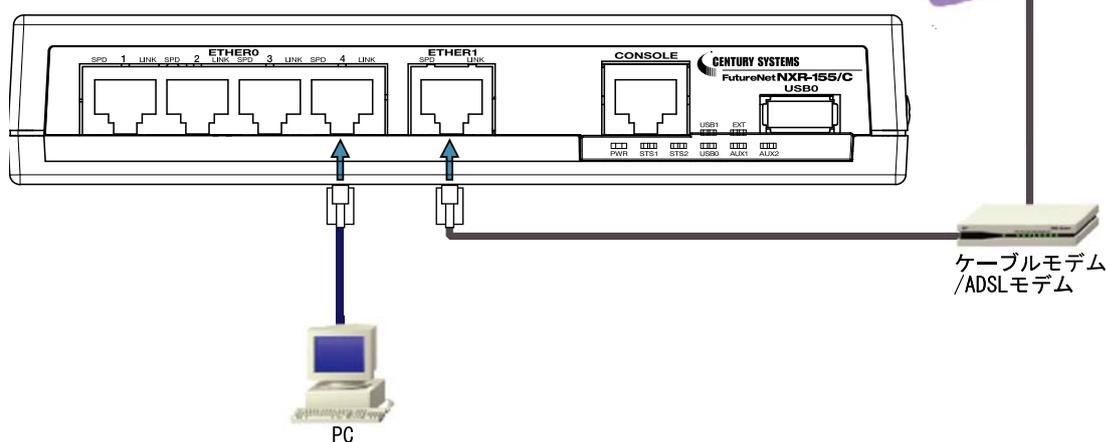
第2章 装置の設置

装置の設置 (NXR-155/C-L)

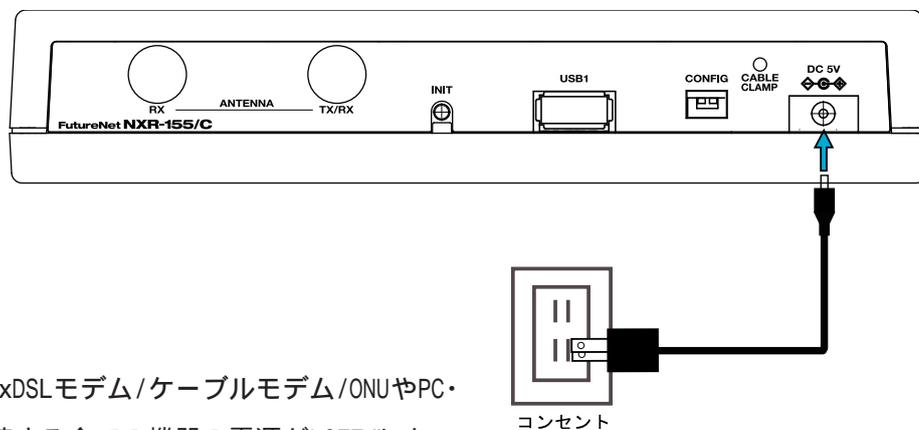
NXR-155/C-L と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 <例>

前面



背面



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が“OFF”になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にあるETHER 1ポートと、ADSLモデム/ケーブルモデム/ONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にあるETHER 0ポートと、HUBやPCをLANケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

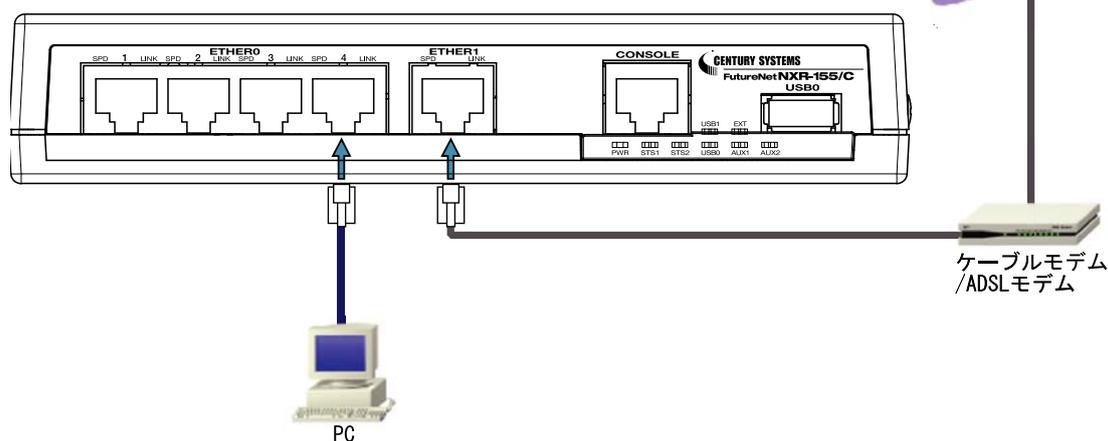
第2章 装置の設置

1. 装置の設置 (NXR-155/C-XW)

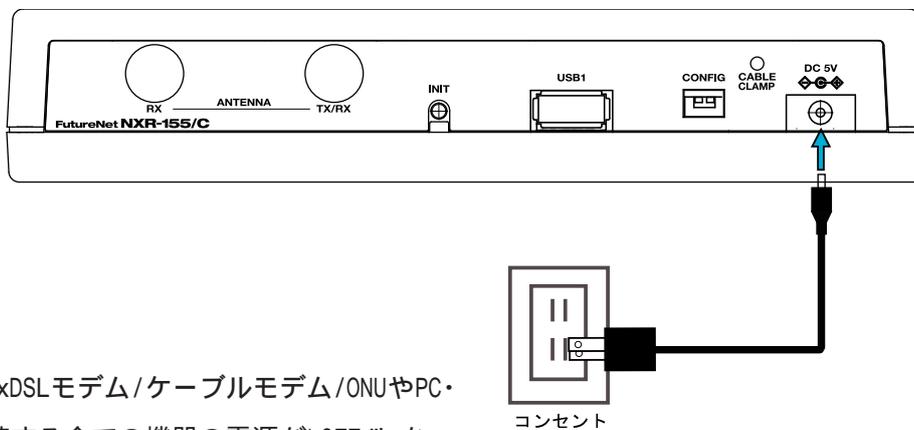
NXR-155/C-XW と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 <例>

前面



背面



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が“OFF”になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にある ETHER 1 ポートと、ADSL モデム/ケーブルモデム/ONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にある ETHER 0 ポートと、HUB や PC を LAN ケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

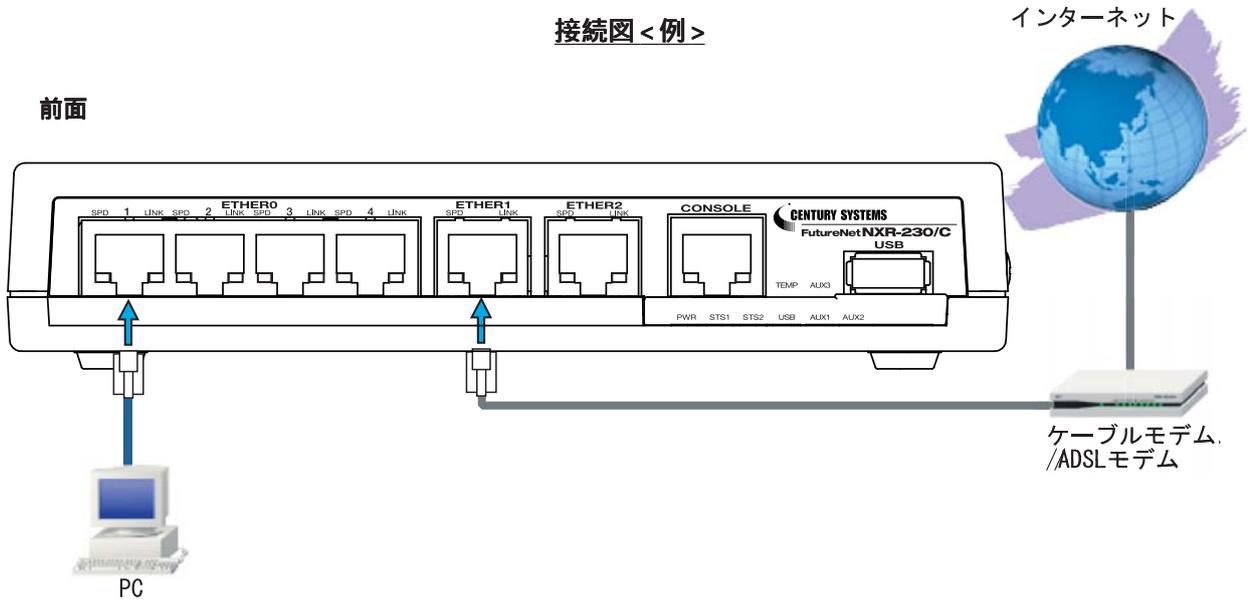
本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

第2章 装置の設置

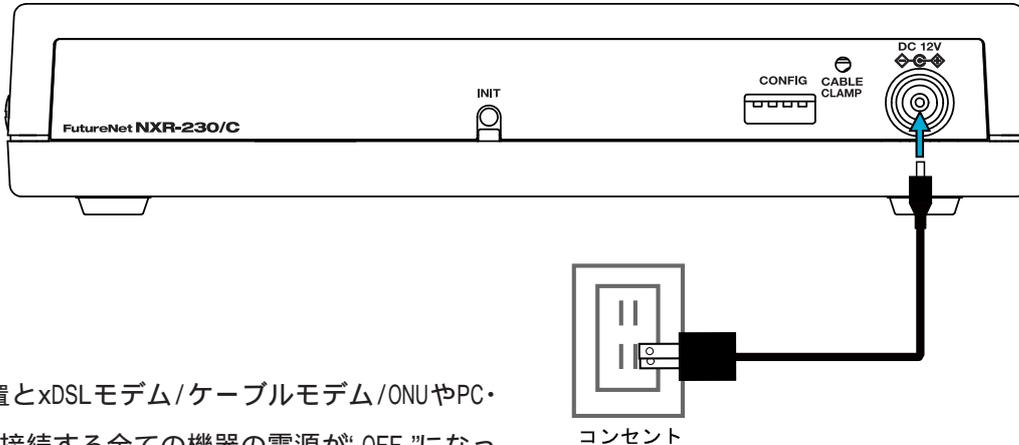
1. 装置の設置 (NXR-230/C)

NXR-230/C と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図 < 例 >



背面



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が“OFF”になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にある ETHER 1 ポートと、ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU を、LAN ケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にある ETHER 0 ポートと、HUB や PC を LAN ケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0 ポートに接続した PC からおこないます。

4 本装置と AC アダプタ、AC アダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

本装置の全ての Ethernet ポートは、AutoMDI / MDI-X 対応です。

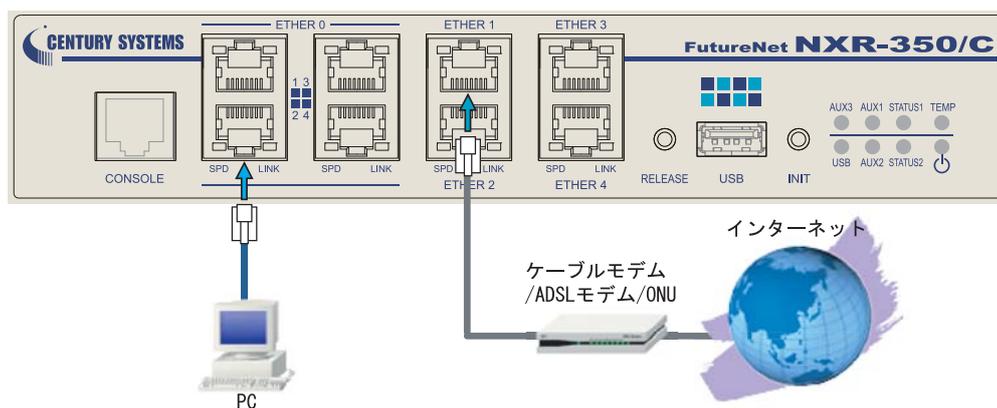
第2章 装置の設置

・装置の設置 (NXR-350/C)

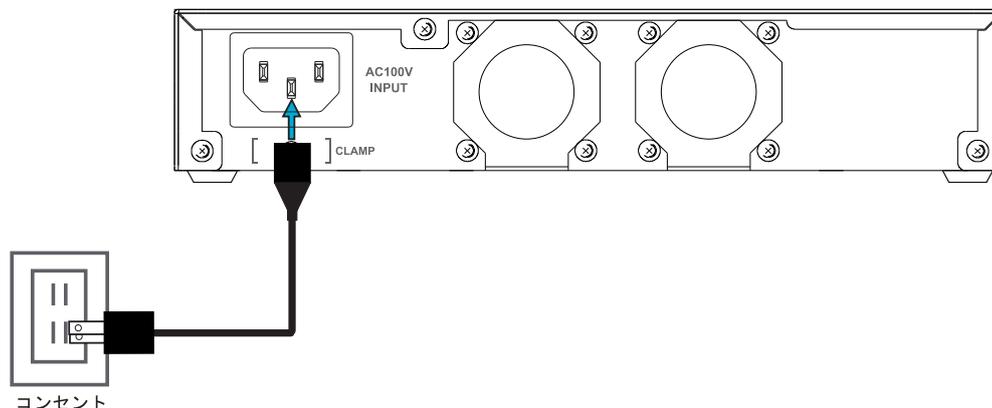
NXR-350/C と PC や xDSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図<例>

前面



背面



1 本装置とxDSLモデム/ケーブルモデム/ONUやPC・HUBなど、接続する全ての機器の電源が「OFF」になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にある ETHER 1 ポートと、ADSL モデム/ケーブルモデム/ONUを、LANケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にある ETHER 0 ポートと、HUB や PC を LANケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、ETHER 0ポートに接続したPCからおこないます。

4 本装置とACアダプタ、ACアダプタとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。

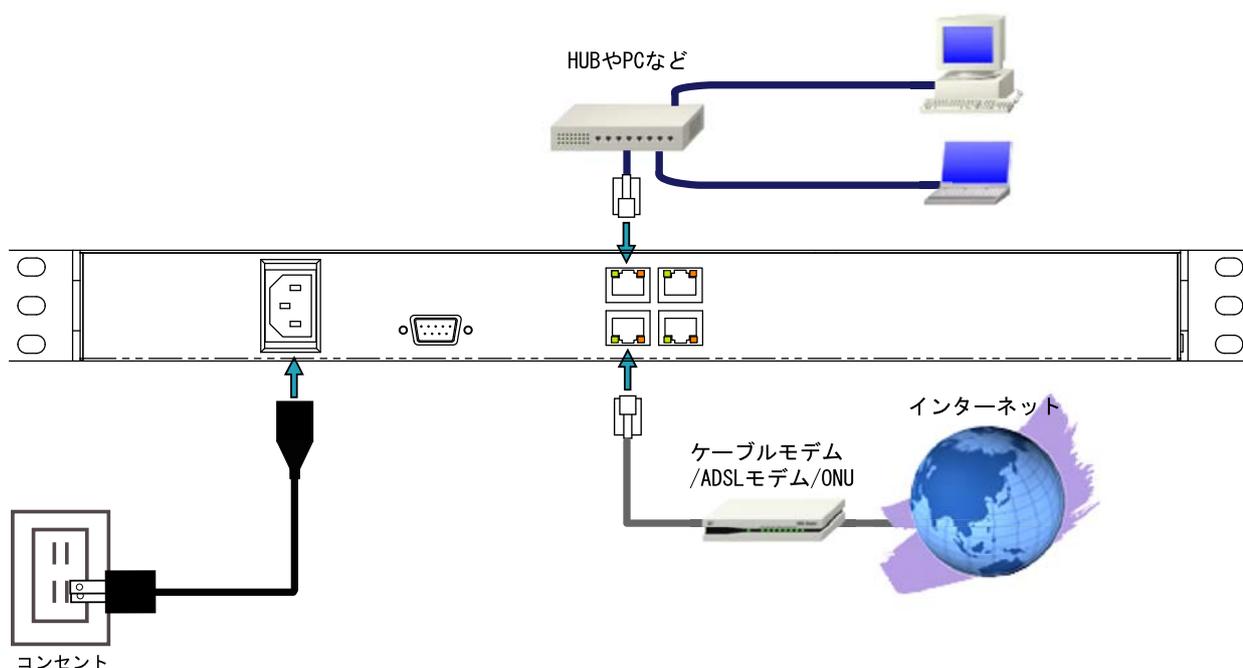
本装置の全てのEthernetポートは、AutoMDI/MDI-X対応です。

第2章 装置の設置

．装置の設置（NXR-1200）

NXR-1200 と、PC や ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU は、以下の手順で接続してください。

接続図<例>



1 本装置と ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU や PC ・ HUB など、接続する全ての機器の電源が “ OFF ” になっていることを確認してください。

2 本装置の前面にある Ether 1 ポートと、ADSL モデム / ケーブルモデム / ONU を、LAN ケーブルで接続してください。

3 本装置の前面にある Ether 0 ポートと、HUB や PC を LAN ケーブルで接続してください。

工場出荷設定状態の場合、本装置へのログインは、Ether 0 ポートに接続した PC からおこないます。

本装置の全 Ethernet ポートは Gigabit Ethernet、AutoMDI/MDI-X に対応しています。

4 本装置と電源コード、電源コードとコンセントを接続してください。

5 全ての接続が完了しましたら、各機器の電源を投入してください。NXR-1200 の本体前面にある Power スイッチを押すと、本装置が起動します。

第3章

コンピュータのネットワーク設定

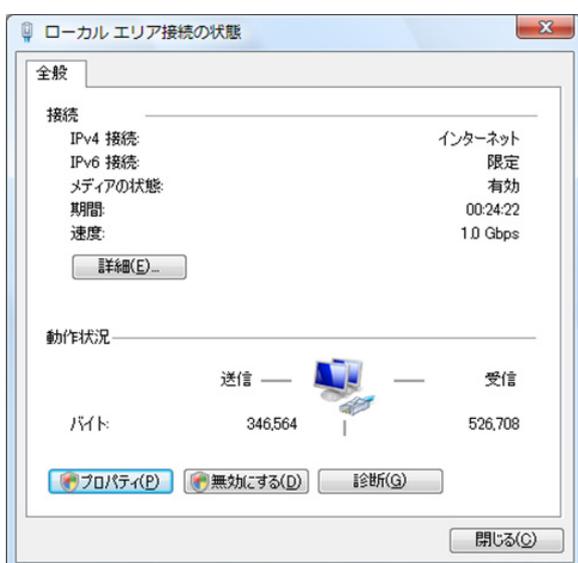
第3章 コンピュータのネットワーク設定

. Windows Vista のネットワーク設定

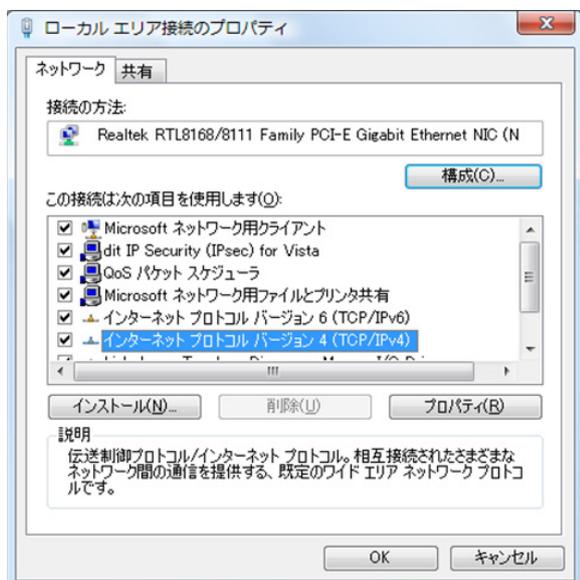
ここではWindows Vistaが搭載されたコンピュータのネットワーク設定について説明します。

1 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット」 「ネットワークと共有センター」 「ネットワーク接続の管理」から、「ローカル エリア接続」を開きます。

2 「ローカル エリア接続の状態」画面が開いたらプロパティをクリックします。



3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が開いたら、「インターネットプロトコルバージョン4(TCP/IPv4)」を選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。

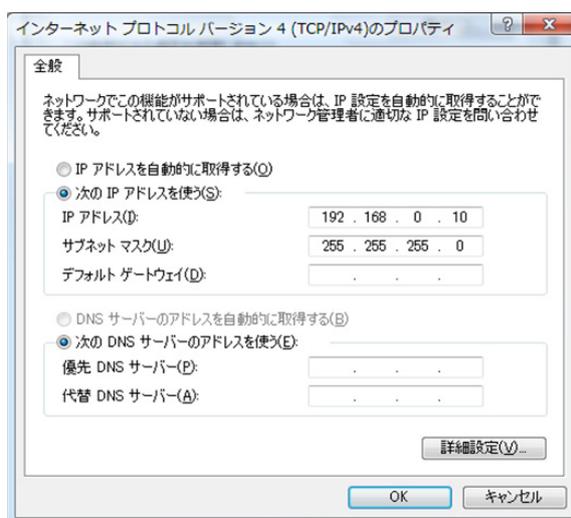


4 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」の画面では、「次の IP アドレスを使う」にチェックを入れて以下のように入力します。

IP アドレス 「192.168.0.10」

サブネットマスク 「255.255.255.0」

デフォルトゲートウェイ 「空欄」



5 最後にOKボタンをクリックして設定完了です。これで本装置へのログインの準備が整いました。

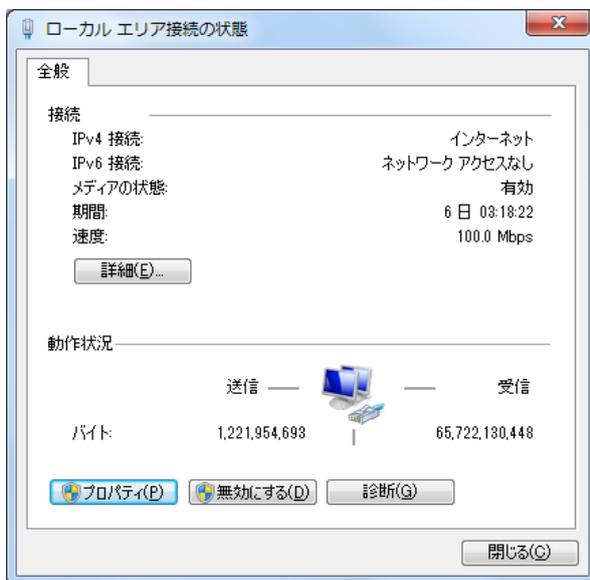
第3章 コンピュータのネットワーク設定

Windows 7 のネットワーク設定

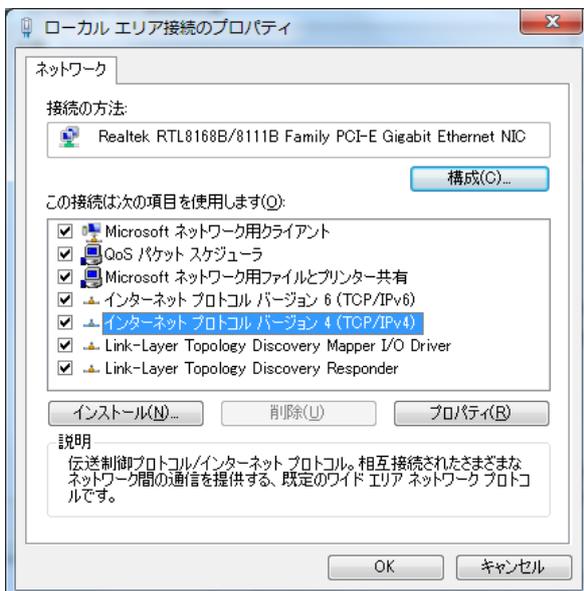
ここではWindows 7が搭載されたコンピュータのネットワーク設定について説明します。

1 「コントロールパネル」 「ネットワークとインターネット」 「ネットワークと共有センター」から、「ローカル エリア接続」を開きます。

2 「ローカル エリア接続の状態」画面が開いたらプロパティをクリックします。



3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面が開いたら、「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」を選択して「プロパティ」ボタンをクリックします。

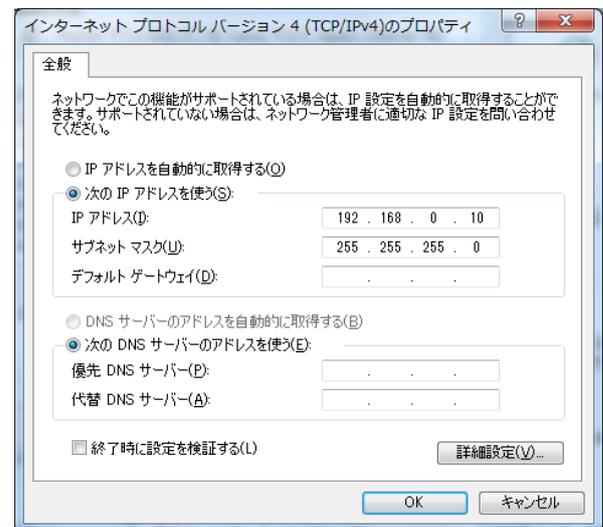


4 「インターネットプロトコルバージョン4 (TCP/IPv4)」の画面では、「次のIPアドレスを使う」にチェックを入れて以下のように入力します。

IP アドレス「192.168.0.10」

サブネットマスク「255.255.255.0」

デフォルトゲートウェイ「空欄」



5 最後にOKボタンをクリックして設定完了です。これで本装置へのログインの準備が整いました。

第3章 コンピュータのネットワーク設定

. Macintosh のネットワーク設定

ここではMacintoshのネットワーク設定について説明します。

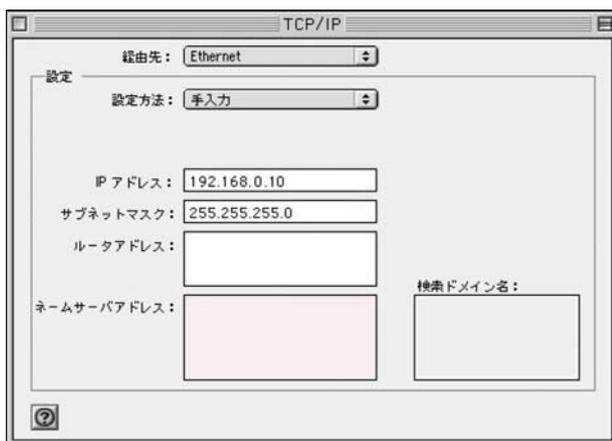
1 「アップルメニュー」から「コントロールパネル」 「TCP/IP」を開きます。

2 経由先を「Ethernet」、設定方法を「手入力」にして、以下のように入力してください。

IPアドレス「192.168.0.10」

サブネットマスク「255.255.255.0」

ルータアドレス「空欄」



3 ウィンドウを閉じて設定を保存します。その後Macintosh本体を再起動してください。これで本装置へログインする準備が整いました。

ここでは、Mac OS Xのネットワーク設定について説明します。

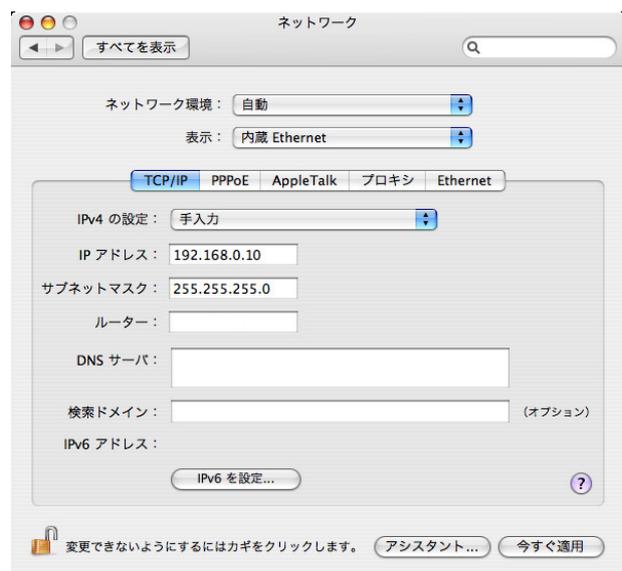
1 「システム環境設定」から「ネットワーク」を開きます。

2 ネットワーク環境を「自動」、表示を「内蔵 Ethernet」、IPv4の設定を「手入力」にして、以下のように入力してください。

IPアドレス「192.168.0.10」

サブネットマスク「255.255.255.0」

ルーター「空欄」



3 ウィンドウを閉じて設定の変更を適用します。これで、本装置へログインする準備が整いました。

第4章

本装置へのログイン

第4章 本装置へのログイン

・本装置の GUI へのログイン

本装置の GUI へのログイン

1. 本装置の ETHER 0 ポートと PC を LAN ケーブルで接続します。
2. PC で Web ブラウザを起動します。
ブラウザのアドレス欄に、以下の IP アドレスとポート番号を入力してください。
http://192.168.0.254:880/
192.168.0.254 は、ETHER 0 ポートの工場出荷時の IP アドレスです。アドレスを変更した場合は、そのアドレスを指定してください。**設定画面のポート番号 880 は変更することができません。**
3. 認証ダイアログ画面が表示されます。ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。

認証が必要

http://192.168.0.254:880 サーバーでは、ユーザー名とパスワードが必要です。サーバーからのメッセージ: Welcome to Century Systems NXR-120 Series Setup

ユーザー名:

パスワード:

ログイン キャンセル

4. 下記のような画面が表示されます。以上で、本装置の GUI へのログインは完了です。



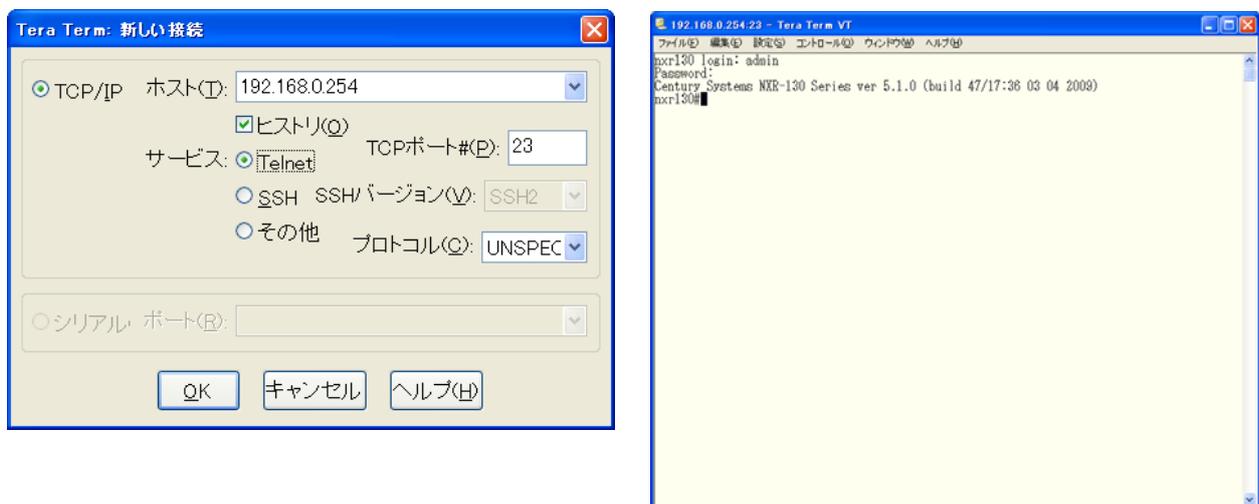
第4章 本装置へのログイン

. 本装置のCLIへのログイン

本装置のCLIへのログイン(TELNET)

1. 本装置のETHER 0ポートとPCをLANケーブルで接続します。
2. PCからTELNET接続を開始すると、ログイン画面が表示されます。
3. ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。

<画面はTeraTermによるTelnetのログイン画面です>



以上で、本装置のCLIへのログインは完了です。

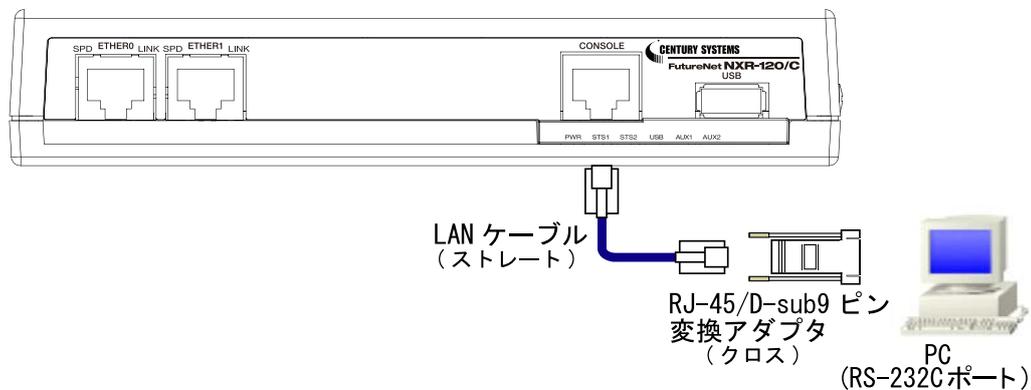
第4章 本装置へのログイン

・本装置のCLIへのログイン

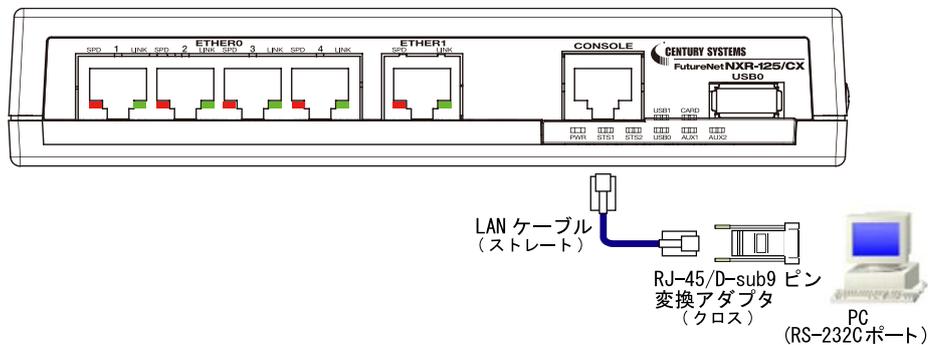
本装置のCLIへのログイン(CONSOLE)

1. 本装置前面のCONSOLEポートと変換アダプタを、LANケーブルで接続します。接続に使用する以下の部品は、製品に付属されています。
 - ・LANケーブル(ストレート、1m)
 - ・RJ-45/D-sub9ピン変換アダプタ(クロス)
2. 変換アダプタのコネクタを、PCのRS-232Cポートに接続してください。

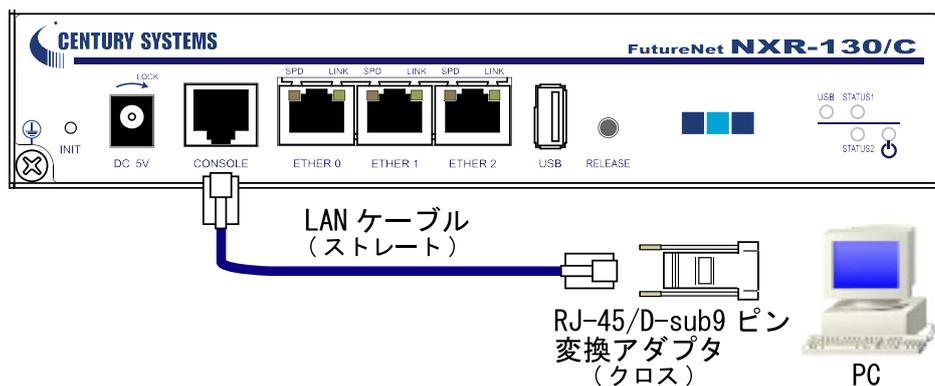
< NXR-120/C >



< NXR-125/CX >



< NXR-130/C >



< 次ページに続く >

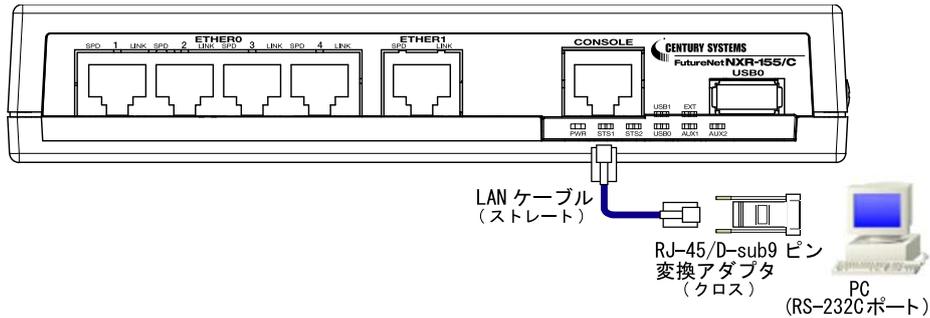
第4章 本装置へのログイン

・本装置のCLIへのログイン

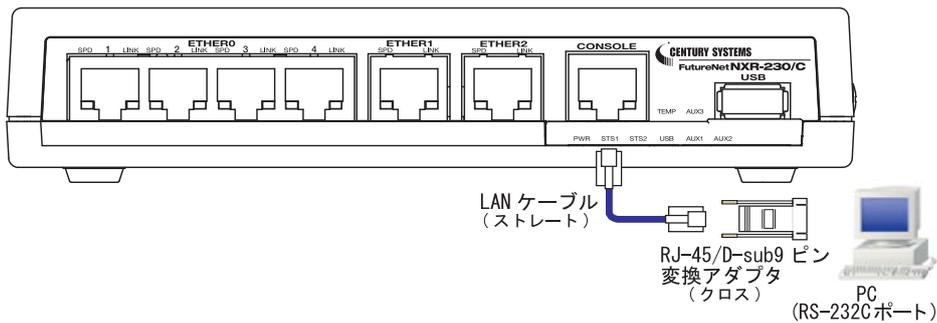
本装置のCLIへのログイン(CONSOLE) < 続き >

< NXR-155/C-L >

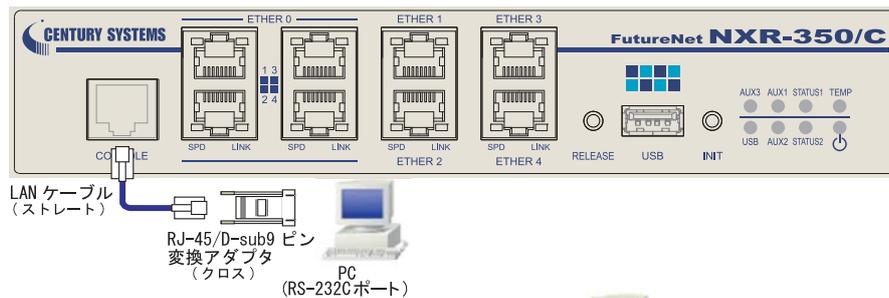
< NXR-155/C-XW >



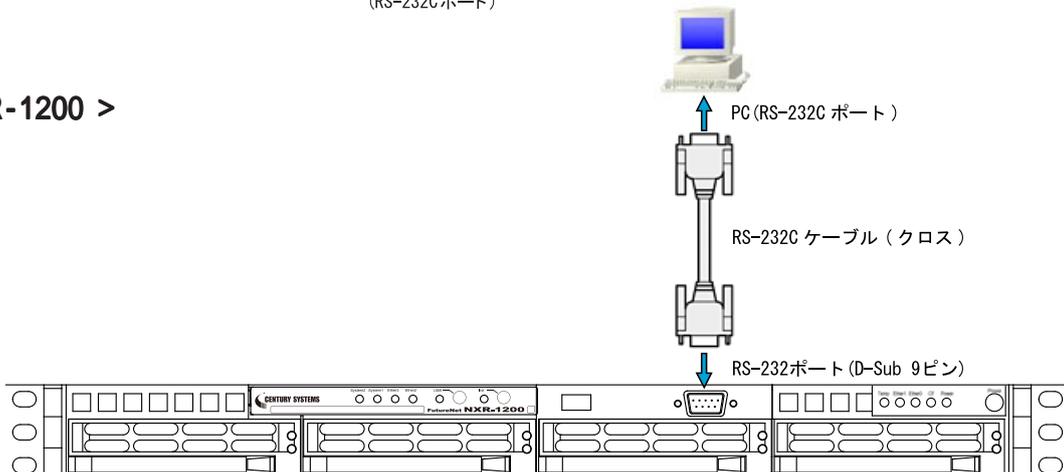
< NXR-230/C >



< NXR-350/C >



< NXR-1200 >



第4章 本装置へのログイン

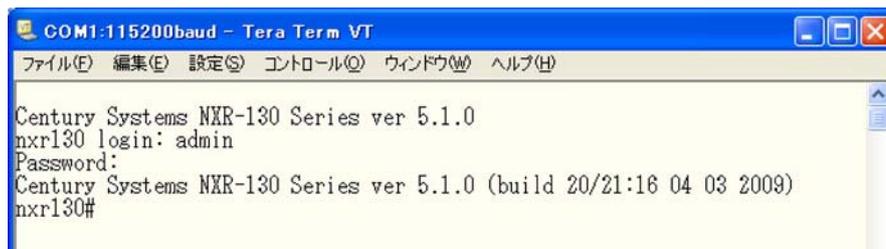
・本装置のCLIへのログイン

本装置のCLIへのログイン(CONSOLE) < 続き >

3. 本装置を接続したPCで、設定用のターミナルソフト(TeraTerm 等)を起動します。
4. 接続条件設定は以下のように設定します。 < 設定例(TeraTerm での接続設定画面) >
設定方法については、ご使用の各ターミナルソフトの説明書をご覧ください。



5. 「Return」キーまたは「Enter」キーを押すと、ログイン画面が表示されます。
6. ユーザ名、パスワード共に「admin」(工場出荷設定)を入力してログインします。



以上で、本装置のCLIへのログインは完了です。

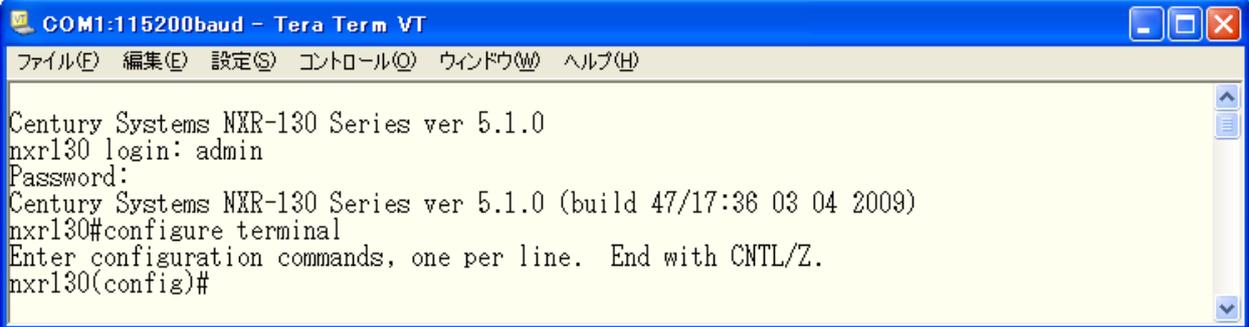
第4章 本装置へのログイン

. HTTPサーバの起動

HTTPサーバの起動

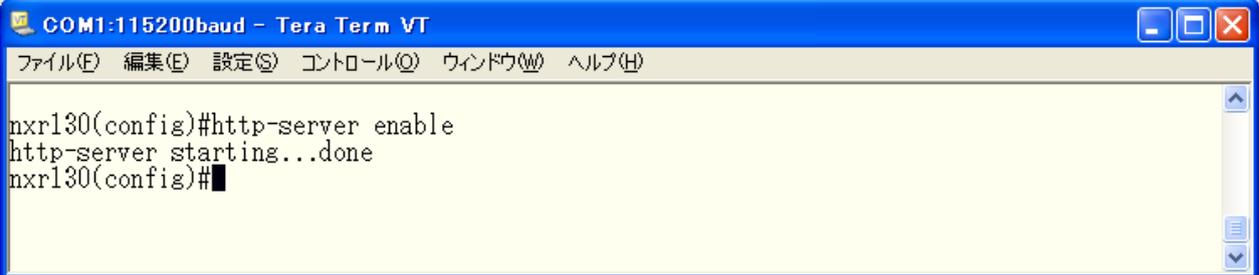
本装置の工場出荷設定状態で電源を投入するとHTTPサーバが起動しますが、設定変更等によりHTTPサーバが起動しない場合は、下記の手順でHTTPサーバを起動してください。

1. CLIにログインした後、“configure terminal”コマンドで、CONFIGURATIONモードに移行します。



```
COM1:115200baud - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
Century Systems NXR-130 Series ver 5.1.0
nxr130 login: admin
Password:
Century Systems NXR-130 Series ver 5.1.0 (build 47/17:36 03 04 2009)
nxr130#configure terminal
Enter configuration commands, one per line. End with CNTL/Z.
nxr130(config)#
```

2. “http-server enable”コマンドを実行して、HTTPサーバを起動します。



```
COM1:115200baud - Tera Term VT
ファイル(F) 編集(E) 設定(S) コントロール(C) ウィンドウ(W) ヘルプ(H)
nxr130(config)#http-server enable
http-server starting...done
nxr130(config)#
```

以上で、HTTPサーバの起動は完了です。

第4章 設定画面へのログイン

・ GUIで設定可能な項目

本装置のGUIで設定可能な項目の一覧です。

[インタフェース]

Ethernet I/F

- ・ Ethernet

PPP I/F

- ・ PPP アカウント
- ・ PPPoE

[ネットワーク]

IPv4

- ・ スタティックルート
- ・ 固定 ARP
- ・ NAT

DHCP

- ・ DHCP ネットワーク
- ・ DHCP ホスト
- ・ DHCP リレー

・ DNS

・ WarpLink

・ NTP

[VPN]

IPsec

- ・ IPsec トンネル
- ・ IPsec 全体設定
- ・ IPsec 認証設定

L2TPv3

- ・ L2TPv3 接続設定
- ・ L2TPv3 全体設定

[ファイアウォール]

アクセスリスト

- ・ IPv4 アクセスリスト

[ユーザインタフェース]

SSH

- ・ SSH サービス
- ・ SSH 鍵 (netconf)

NETCONF

- ・ NETCONF

CRP

- ・ CRP グローバル
- ・ CRP クライアント

[システム設定]

・ 本装置のパスワード

・ ホスト名

ログ

- ・ システムログ
- ・ ログメール

設定情報

- ・ 設定の保存
- ・ 設定の復帰
- ・ 設定のリセット

ファームウェア

- ・ ファームウェアアップデート

・ 内蔵時計

・ 再起動

・ セッション数

[運用機能]

ネットワーク診断

- ・ Ping
- ・ Traceroute

パケットダンプ

- ・ パケットダンプ
- ・ パケットダンプ結果表示

ログ情報

- ・ システムログ
- ・ ブートログ

システム情報

- ・ システム情報
- ・ テクニカルサポート
- ・ システムモニター
- ・ サポート情報

第5章

インタフェース設定

第5章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

1. Ethernet

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース

Ethernet I/F

・ Ethernet

Ethernet

インタフェース	IPアドレス	MTU	リンクモード	編集
ethernet0	192.168.0.254/24	1500	auto	編集
ethernet1		1500	auto	編集

設定するインタフェースを選択して「編集」をクリックします。

ethernet1	
IPアドレス割当方式	固定アドレス ▼
固定アドレス	
IPアドレス	
DHCPクライアント	
ホスト名	
インタフェース	
Keepalive	10
MTU	1500
リンクモード	自動 ▼
詳細設定	編集
PPPoE	編集
フィルタ	編集
NAT	編集
保存	

IP アドレス割当方式

「固定アドレス」/「DHCPクライアント」をプルダウンから選択してください。

IPアドレス割当方式	固定アドレス ▼
固定アドレス	固定アドレス
	DHCPクライアント

[固定アドレス]

IP アドレス

「固定アドレス」を選択した場合に入力してください。IPアドレス/マスクビット値の形式で入力してください。

[入力例] 192.168.1.254/24

[DHCPクライアント]

ホスト名

「DHCPクライアント」を選択した場合に入力してください。必要がなければ、空欄でも構いません。

[インタフェース]

Keepalive

Ethernetポートのリンク状態を定期的に監視します。OSPFの使用時にリンクダウンを検知した場合、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を停止します。再度リンク状態がアップした場合には、そのインタフェースに関連付けられたルーティング情報の配信を再開します。監視間隔は、1-60[秒]の間で設定できます。また、0を設定すると、リンク監視を行いません。デフォルト値は、10[秒]です。

MTU

「Path-MTU-Black-HOLE」現象が発生した場合等は、この値を変更することで回避できます。通常は初期設定の1500[バイト]のまま構いません。

リンクモード

リンクモードをプルダウンから選択してください。工場出荷設定は「自動」です。

リンクモード	自動 ▼
	自動
	100Mbps/全二重
	100Mbps/半二重
	10Mbps/全二重
	10Mbps/半二重

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第5章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

詳細設定

詳細設定	編集
------	----

「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1	詳細設定
PROXY ARP	使用しない ▼
Directed Broadcast	使用しない ▼
ICMP Redirects	使用する ▼
ICMP Mask Reply	使用しない ▼

保存

PROXY ARP

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

PROXY ARP	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-----------	--------------------------

Directed Broadcast

「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、Directed Broadcastの転送を許可します。

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

Directed Broadcast	使用しない ▼ 使用しない 使用する
--------------------	--------------------------

Directed Broadcast

IPアドレスのホスト部がすべて1のIPアドレスのことです。

(例) 192.168.0.0/24のDirected Broadcastは、192.168.0.255です。

ICMP Redirects

「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirectsを送出します。

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Redirects	使用する ▼ 使用しない 使用する
----------------	-------------------------

ICMP Redirects

他に適切な経路があることを通知するICMPパケットのことです。

ICMP Mask Reply

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Mask Reply	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-----------------	--------------------------

ネットワーク監視装置によっては、LAN内装置の監視をICMP Address Maskの送受信によって行う場合があります。「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信したICMP Address Mask Request (type=17)に対して、Reply(type=18)を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。「使用しない」を選択すると、Requestに対して応答しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第5章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

PPPoE

PPPoE	編集
-------	----

「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1	PPPoE
接続1	(未設定) ▼
接続2	(未設定) ▼
接続3	(未設定) ▼
接続4	(未設定) ▼
接続5	(未設定) ▼

接続番号を選択し、プルダウンからインタフェースを選択します。

接続1	(未設定) ▼
	(未設定)
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PPPoE 接続の設定については、
「第5章 インタフェース設定 のII.PPP /IF」を参照してください。

フィルタ

フィルタ	編集
------	----

「編集」をクリックします。

ppp0	フィルタ
IPv4フィルタ	
入力フィルタ	指定しない ▼
出力フィルタ	指定しない ▼
転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼
転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼
保存	

[IPv4フィルタ]

入力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

入力フィルタ	指定しない ▼
	指定しない
	名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

出力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

出力フィルタ	指定しない ▼
	指定しない
	名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送(入力時)フィルタ

プルダウンから、「指定しない」/「名前を指定する」を選択します。

転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼
	指定しない
	名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

第5章 インタフェース設定

. Ethernet I/F

転送（出力時）フィルタ
プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

転送(出力時)フィルタ

指定しない
指定しない
名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

フィルタの設定については、
「第8章 ファイアウォール」を参照してください。

NAT

NAT	編集
-----	----

「編集」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ethernet1	NAT
IPv4 NAT	
マスカレード	使用しない
DNAT	指定しない
SNAT	指定しない
保存	

[IPv4 NAT]

マスカレード

プルダウンから、マスカレードの設定（「使用しない」 / 「使用する」）を選択します。

マスカレード	使用しない
	使用しない
	使用する

DNAT

プルダウンから、DNAT の設定（「指定しない」 / 「名前を指定する」）を選択します。

DNAT	名前を指定する
	指定しない
	名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、適用する DNAT の名前を入力します。

SNAT

プルダウンから、SNAT の設定（「指定しない」 / 「名前を指定する」）を選択します。

SNAT	指定しない
	指定しない
	名前を指定する

・「名前を指定する」場合は、適用する SNAT の名前を入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NAT の設定については、
「第6章 ネットワークの1.IPv4、3.NAT」を参照してください。

1. PPP アカウント

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
 インタフェース

PPP I/F

・ PPP アカウント

PPP アカウント

インタフェース	説明	アカウント名	認証方式	編集	削除
		(未設定)			
追加					

PPPアカウントの追加

「追加」をクリックします。

インタフェース	ppp0 ▼
説明	<input type="text"/>
接続先	(選択して下さい) ▼
認証方式	AUTO ▼
アカウント名	(必須) <input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>
保存	

インタフェース

使用するインタフェースをプルダウンから選択します。

インタフェース	ppp0 ▼
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

説明

PPPアカウントの説明を記載します。

接続先

プルダウンから、接続先（「PPPoE-ethernet0」 / 「PPPoE-ethernet1」 / 「モバイル-mobile0」）を選択します。

接続先	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	PPPoE-ethernet0
	PPPoE-ethernet1
	モバイル-mobile0

認証方式

認証方式をプルダウンから選択します。

認証方式	AUTO ▼
	AUTO
	CHAP
	PAP

アカウント名

プロバイダから指定されたアカウントを入力してください。

パスワード

プロバイダから指定された接続パスワードを入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

[モバイルカード設定]

接続先として「モバイル-mobile0」を選択した場合に、設定します。

モバイルカード設定	
電話番号	09012342222
APN	mobile.ne.jp
CID	1
PDPタイプ	IP ▼
TCP/IP	編集
PPP	編集
インタフェース	編集
フィルタ	編集
NAT	編集

電話番号

接続先電話番号を設定します。

APN

APN(Access Point Name)を設定します。

- モバイルネットワークのデータ通信で必要になる接続先を指定する文字列の事です。プロバイダ毎に固有の名前を設定します。

CID

CID(Context Identifier)を設定します。

PDPタイプ

プルダウンから、PDPタイプ(「IP」/「PPP」)を選択します。

TCP/IP

TCP/IP	編集
--------	----

「編集」をクリックします。

ppp0	TCP/IP
IPアドレス割当方式	自動 ▼
IPアドレス	
ICMP Redirects	使用する ▼
ICMP Mask Reply	使用しない ▼

IPアドレス割当方式

「自動」/「固定アドレス」をプルダウンから選択します。

IPアドレス割当方式	自動 ▼
	固定アドレス
	自動

IPアドレス

「固定アドレス」を選択した場合に、入力します。

ICMP Redirects

「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにおいて、ICMP Redirectsを送出します。「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Redirects	使用する ▼
	使用しない
	使用する

ICMP Redirects

他に適切な経路があることを通知するICMPパケットの事です。

ICMP Mask Reply

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選択します。

ICMP Mask Reply	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

ネットワーク監視装置によっては、LAN内装置の監視をICMP Address Maskの送受信によって行う場合があります。「使用する」を選択すると、該当するインタフェースにて受信したICMP Address Mask Request (type=17)に対して、Reply(type=18)を返送し、インタフェースのサブネットマスク値を通知します。「使用しない」を選択すると、Requestに対して応答しません。

第5章 インタフェース設定

. PPP I/F

PPP

PPP	編集
-----	----

「編集」をクリックします。

ppp0	PPP
セッション	
自動接続	有効
リトライ間隔	60
IPCP	使用する
DNSサーバ	
設定方法	プロバイダから自動割り当て
プライマリサーバ	
セカンダリサーバ	

プライマリサーバ
セカンダリサーバ
「手で設定」を選択した場合に、DNSサーバの IP
アドレスを入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

[セッション]

自動接続

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。

自動接続	有効
	有効
	無効

リトライ間隔

30-600[秒]の間で設定します。デフォルト値は60
[秒]です。

IPCP

「使用する」/「使用しない」をプルダウンから選
択します。

IPCP	使用する
	使用しない
	使用する

[DNSサーバ]

設定方法

特に指定のない場合は、「プロバイダから自動割り
当て」を選択します。

指定されている場合は「手で設定」を選択して、
DNSサーバの IPアドレスを入力します。

プロバイダから DNSアドレスを自動割り当てされ
ても、そのアドレスを使用しない場合は「割り当
てられた DNSを使わない」を選択します。この場
合は、LAN側の各ホストに DNSサーバのアドレスを
それぞれ設定しておく必要があります。

設定方法	プロバイダから自動割り当て
	プロバイダから自動割り当て
	割り当てられたDNSを使わない
	手で設定

フィルタ

フィルタ		編集
「編集」をクリックします。		
ppp0	フィルタ	
IPv4フィルタ		
入力フィルタ	指定しない ▼	
出力フィルタ	指定しない ▼	
転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼	
転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼	
保存		

[IPv4フィルタ]

入力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

入力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

出力フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

出力フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送(入力時)フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

転送(入力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

転送(出力時)フィルタ

プルダウンから、「指定しない」 / 「名前を指定する」を選択します。

転送(出力時)フィルタ	指定しない ▼	
	指定しない	
	名前を指定する	

・「名前を指定する」場合は、入力フィルタの名前を指定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第5章 インタフェース設定

. PPP I/F

NAT

NAT	<input type="button" value="編集"/>
-----	-----------------------------------

「編集」をクリックします。

ppp0	NAT
IPv4 NAT	
マスカレード	使用しない ▼
DNAT	指定しない ▼
SNAT	指定しない ▼
<input type="button" value="保存"/>	

マスカレード

プルダウンから、「使用する」「使用しない」を選択します。

マスカレード	使用する ▼
	使用しない
	使用する

DNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

DNAT	名前を指定する ▼	(必須)
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、適用するDNATの名前を入力します。

DNAT	名前を指定する ▼	dnat
------	-----------	------

SNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

SNAT	名前を指定する ▼	(必須)
	指定しない	
	名前を指定する	

「名前を指定する」を選択した場合は、SNATの名前を入力します。

SNAT	名前を指定する ▼	snat
------	-----------	------

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PPP アカウントの編集

インタフェース	説明	アカウント名	認証方式	編集	削除
ppp0		aaa	auto	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>

PPP アカウントを編集するには「編集」をクリックします。

ppp0	
説明	<input type="text"/>
接続先	モバイル-mobile0 ▼
認証方式	AUTO ▼
アカウント名	aaa <input type="text"/>
パスワード	*** <input type="text"/>
モバイルカード設定	
電話番号	09012342222 <input type="text"/>
APN	mobile.ne.jp <input type="text"/>
CID	1 <input type="text"/>
PDPタイプ	IP ▼
TCP/IP	<input type="button" value="編集"/>
PPP	<input type="button" value="編集"/>
インタフェース	<input type="button" value="編集"/>
フィルタ	<input type="button" value="編集"/>
NAT	<input type="button" value="編集"/>
<input type="button" value="保存"/>	

各項目については、[PPP アカウントの追加](#)を参照してください。

PPP アカウントの削除

インタフェース	サービス名	アカウント名	認証方式	編集	削除
ppp0		userid	chap	<input type="button" value="編集"/>	<input type="button" value="削除"/>

PPP アカウントを削除するには「削除」をクリックします。

2. PPPoE

地域 IP 網での工事や不具合、また ADSL 回線の不安定な状態によって、正常に PPPoE 接続が行えなくなることがあります。

これはユーザー側が PPPoE セッションが確立していないことを検知していても、地域 IP 網側はそれを検知していないために、ユーザー側からの新規接続要求を受け入れることができない状態になっていることが原因です。

ここで PPPoE 特殊オプション機能を使うことにより、本装置が PPPoE セッションを確立していないことを検知し、強制的に PADT パケットを地域 IP 網側へ送信して、地域 IP 網側に PPPoE セッションの終了を通知します。

本装置から PADT パケットを送信することで、地域 IP 網側の PPPoE セッション情報がクリアされ、PPPoE の再接続性を高めることができます。

PADT = PPPoE Active Discovery Terminate の略。PPPoE セッションが終了したことを示すパケットです。これにより、PADT を受信した側で該当する PPPoE セッションを終了させます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

インタフェース

PPP I/F

・ PPPoE

PPPoE

PADT強制送出	
前セッションPADT	有効
Unknwon IPv4 Packet	有効
Unknwon LCP-Echo Request	有効

[PADT 強制送出]

前セッション PADT

回線接続時に前回の PPPoE セッションの PADT を強制送出します。

「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

前セッションPADT	有効
	無効
	有効

Unknwon IPv4 Packet

非接続セッションの IPv4 パケット受信時に PADT を強制送出します。

「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

Unknwon IPv4 Packet	有効
	無効
	有効

Unknwon LCP-Echo Request

非接続セッションの LCP echo request 受信時に PADT を強制送出します。

「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。

Unknwon LCP-Echo Request	有効
	無効
	有効

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

地域 IP 網の工事後に PPPoE 接続が出来なくなってしまう事象を回避するためにも、PPPoE 特殊オプション機能を有効にした上で PPPoE 接続をしていただくことを推奨します。

第6章

ネットワーク

第6章 ネットワーク

. IPv4

1. スタティックルート

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・スタティックルート

スタティックルート



スタティックルートの追加

「追加」をクリックします。

宛先ネットワーク	<input type="text"/>
インタフェース	指定しない ▼
ゲートウェイ	<input type="text"/>
ディスタンス	<input type="text"/>

宛先ネットワーク

ネットワークアドレス / マスクビット値の形式で入力してください。

[入力例] 192.168.100.0/24
192.168.200.254/32

インタフェース

プルダウンからインタフェースを選択します。

インタフェース	指定しない ▼
指定しない	
ethernet0	
ethernet1	
ethernet2	
ppp0	
ppp1	
ppp2	
ppp3	
ppp4	
null	
tunnel	

VLAN インタフェースを指定する場合は、該当する ethernet インタフェースを選択し、VLAN ID を入力してください。VLAN ID は、1-4094 の間で設定します。

インタフェース	ethernet0 ▼	VLAN ID <input type="text"/>
---------	-------------	------------------------------

ゲートウェイ

インタフェースを「指定しない」に選択した場合、上位ルータの IP アドレスを入力します。

ディスタンス

経路選択の優先順位を指定します。1-255 の間で指定します。値が小さいほど優先度が高くなります。**スタティックルートのデフォルトディスタンス値は1です。**

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

スタティックルートの編集

「編集」をクリックします。

宛先ネットワーク	インタフェース	ゲートウェイ	ディスタンス	編集	削除
10.0.0.0/8		192.168.1.1		編集	削除

スタティックルートの削除

「削除」をクリックします。

宛先ネットワーク	インタフェース	ゲートウェイ	ディスタンス	編集	削除
10.0.0.0/8		192.168.1.1		編集	削除

2. 固定 ARP

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・ 固定 ARP

固定 ARP



固定 ARP の追加

「追加」をクリックします。

IPアドレス	<input type="text"/>
MACアドレス	<input type="text"/>

IP アドレス

[入力例] 192.168.0.1

MAC アドレス

[入力例] 00:11:22:33:44:55

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

固定 ARP の編集

「編集」をクリックします。

IPアドレス	MACアドレス	編集	削除
192.168.0.1	00:11:22:33:44:55	編集	削除

固定 ARP の削除

「削除」をクリックします。

IPアドレス	MACアドレス	編集	削除
192.168.0.1	00:11:22:33:44:55	編集	削除

3. NAT

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

IPv4

・ NAT



インタフェース

- インタフェース			
インタフェース	DNAT	SNAT	編集
ethernet0			編集
ethernet1			編集

インタフェースの編集

当該インタフェースの「編集」をクリックします。

ethernet0		NAT	
IPv4 NAT			
マスカレード		使用しない ▼	
DNAT		指定しない ▼	
SNAT		指定しない ▼	
保存			

マスカレード

プルダウンから、「使用する」「使用しない」を選択します。

マスカレード	使用する ▼
	使用しない
	使用する

DNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

DNAT	名前を指定する ▼ (必須)
	指定しない
	名前を指定する

「名前を指定する」を選択した場合は、適用するDNATの名前を入力します。

DNAT	名前を指定する ▼ dnat
------	----------------

SNAT

プルダウンから、「名前を指定する」「指定しない」を選択します。

SNAT	名前を指定する ▼ (必須)
	指定しない
	名前を指定する

「名前を指定する」を選択した場合は、SNATの名前を入力します。

SNAT	名前を指定する ▼ snat
------	----------------

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第6章 ネットワーク

1. IPv4

DNAT

- DNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
			宛先アドレス	宛先ポート	(未設定)		
追加							

DNATの追加

「追加」をクリックします。

DNAT	
名前	(必須)
変換モード	ダイナミックNAT ▼
プロトコル	IP ▼
送信元アドレス	
送信元アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
宛先アドレス	
宛先アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
スタティックNAT	
変換後アドレス	
ダイナミックNAT	
開始アドレス	(必須)
終了アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
保存	

[DNAT]

名前

DNATの名前を入力します(DNAT に名前を付けます)。

変換モード

プルダウンから、「ダイナミック NAT」「スタティック NAT」を選択します。

変換モード	ダイナミックNAT ▼ ダイナミックNAT スタティックNAT
-------	---------------------------------------

プロトコル

プルダウンから、プロトコルを選択します。

「数値指定」を選択した場合は、プロトコル番号(0-255)を指定します。

プロトコル	IP ▼ IP TCP UDP 数値指定
-------	----------------------------------

[送信元アドレス]

送信元アドレス

以下の形式で、送信元アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス
A.B.C.D/M : ネットワークアドレス
空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することが出来ます。
空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することが出来ます。
ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

第6章 ネットワーク

1. IPv4

[宛先アドレス]

宛先アドレス

以下の形式で、宛先アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス

A.B.C.D/M : ネットワークアドレス

空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

[スタティック NAT]

変換モードで、「スタティック NAT」を選択した場合に設定します。

変換後アドレス

以下の形式で、変換後アドレスを入力します。

A.B.C.D/M

[ダイナミック NAT]

変換モードで、「ダイナミック NAT」を選択した場合に設定します。

開始アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

終了アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

設定を保存するには、「保存」をクリックします

DNAT の編集

当該項目の「編集」をクリックします。

DNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス 宛先アドレス	送信元ポート 宛先ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
aaa	ダイナミックNAT	p	1.1.1.1				編集
<input type="button" value="削除"/>			2.2.2.2		3.3.3.3		削除
<input type="button" value="追加"/>							

DNAT の削除

当該項目の「削除」をクリックします。

第6章 ネットワーク

I . IPv4

SNAT

SNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集 削除
			宛先アドレス	宛先ポート			
(未設定)							
追加							

SNATの追加

「追加」をクリックします。

SNAT	
名前	(必須)
変換モード	ダイナミックNAT ▼
プロトコル	IP ▼
送信元アドレス	
送信元アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
宛先アドレス	
宛先アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
スタティックNAT	
変換後アドレス	
ダイナミックNAT	
開始アドレス	(必須)
終了アドレス	
開始ポート	
終了ポート	
保存	

[SNAT]

名前

SNATの名前を入力します (SNATに名前を付けます)。

変換モード

プルダウンから、「ダイナミックNAT」「スタティックNAT」を選択します。

変換モード	ダイナミックNAT ▼ ダイナミックNAT スタティックNAT
-------	---------------------------------------

プロトコル

プルダウンから、プロトコルを選択します。「数値指定」を選択した場合は、プロトコル番号 (0-255) を指定します。

プロトコル	IP ▼ IP TCP UDP 数値指定
-------	----------------------------------

[送信元アドレス]

送信元アドレス

以下の形式で、送信元アドレスを入力します。

- A.B.C.D : ホストアドレス
- A.B.C.D/M : ネットワークアドレス
- 空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミックNAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号 (1-65535) を指定することが出来ます。空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミックNAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号 (1-65535) を指定することが出来ます。ただし、開始ポート < 終了ポートとなるように設定して下さい。

第6章 ネットワーク

1. IPv4

[宛先アドレス]

宛先アドレス

以下の形式で、宛先アドレスを入力します。

A.B.C.D : ホストアドレス

A.B.C.D/M : ネットワークアドレス

空欄 : any

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

空欄の場合、ポート番号は、「any」になります。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート<終了ポートとなるように設定して下さい。

[スタティック NAT]

変換モードで、「スタティック NAT」を選択した場合に設定します。

変換後アドレス

以下の形式で、変換後アドレスを入力します。

A.B.C.D/M

[ダイナミック NAT]

変換モードで、「ダイナミック NAT」を選択した場合に設定します。

開始アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

終了アドレス

以下の形式で、開始アドレスを入力します。

A.B.C.D

開始ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、開始ポート番号(1-65535)を指定することができます。

終了ポート

変換モードで「ダイナミック NAT」、プロトコルで、「TCP」/「UDP」を選択した場合に、終了ポート番号(1-65535)を指定することができます。

ただし、開始ポート<終了ポートとなるように設定して下さい。

設定を保存するには、「保存」をクリックします

SNATの編集

当該項目の「編集」をクリックします。

- SNAT							
名前	変換モード	プロトコル	送信元アドレス	送信元ポート	変換後アドレス	変換後ポート	編集
			宛先アドレス	宛先ポート			削除
bbb	スタティックNAT	ip	1.1.1.1		3333/24		編集
			2222				削除
追加							

SNATの削除

当該項目の「削除」をクリックします。

1. DHCP ネットワーク

DHCP サーバ機能の設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ネットワーク

DHCP

・ DHCP ネットワーク

DHCP ネットワーク

ネットワーク	サブネット	リースアドレス	標準リース時間	編集	削除
(未設定)					
<input type="button" value="追加"/>					

DHCP ネットワークの追加

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

ネットワーク	No. 1			
サブネット				
標準リース時間	21600			
最大リース時間	43200			
<input type="button" value="保存"/>				

ネットワーク

ネットワーク番号をプルダウンから選択します。

ネットワーク	No. 1
	No. 1
	No. 2
	No. 3
	No. 4
	No. 5

サブネット

DHCP サーバを動作させるネットワーク空間のアドレスを設定します。

[入力例] 172.16.0.0/16

標準リース時間

DHCP クライアントに IP アドレスを割り当てる時間を指定します。

60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 21600[秒]です。

最大リース時間

DHCP クライアントが割り当て時間を要求した時の最大割り当て時間を指定します。指定した値以上のリース時間を要求された場合、リース時間は指定値で設定されます。

60-15552000[秒]の間で指定します。デフォルト値は 43200[秒]です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

リースアドレスの追加

リースアドレスを追加するには、DHCP ネットワークの画面で、「編集」をクリックします。

ネットワーク	サブネット	リースアドレス	標準リース時間	編集	削除
1	172.16.0.0/16		21600	編集	削除
追加					

下記の画面が表示されます。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	非表示 (未設定) 追加
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	編集
保存	

リースアドレス

「追加」をクリックします。

リースアドレス	非表示 (未設定) 追加
---------	--------------------

下記の画面が表示されます。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リース開始アドレス	
リース終了アドレス	
保存	

リース開始アドレス

リース開始アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.0.1

リース終了アドレス

リース終了アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.10.254

- ・DHCP クライアントに割り当てる最初と最後の IP アドレスを指定します。両項目で設定した範囲の IP アドレスが、DHCP クライアントに割り当てられます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

リースアドレスの編集

リースアドレスを編集するには、下記の画面で「編集」をクリックします。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	非表示 172.16.0.1 - 172.16.10.254 編集 削除 追加
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	編集
保存	

リースアドレスの削除

リースアドレスを削除するには、下記の画面で「削除」をクリックします。

リースアドレスの追加

DHCP ネットワークの一つのサブネット内に、複数のリースアドレスを設定することができます。リースアドレスは、最大で 16 個設定することができます。

リースアドレスを追加するには、「追加」をクリックします。

標準リース時間

IP アドレスの標準リース時間を設定します。

最大リース時間

IP アドレスの最大リース時間を設定します。

オプションの編集

オプションの設定 / 編集をするには、オプションの「編集」をクリックします。

ネットワーク	1
サブネット	172.16.0.0/16
リースアドレス	<input type="button" value="非表示"/> 172.16.0.1 - 172.16.10.254 <input type="button" value="編集"/> <input type="button" value="削除"/> <input type="button" value="追加"/>
標準リース時間	21600
最大リース時間	43200
オプション	<input type="button" value="編集"/>
<input type="button" value="保存"/>	

下記の画面が表示されます。

ゲートウェイ	<input type="text"/>
ドメイン	<input type="text"/>
プライマリDNSサーバ	<input type="text"/>
セカンダリDNSサーバ	<input type="text"/>
プライマリWINSサーバ	<input type="text"/>
セカンダリWINSサーバ	<input type="text"/>
スコープID	<input type="text"/>
プライマリSIPサーバ	<input type="text"/>
セカンダリSIPサーバ	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	

オプション

ゲートウェイ

DHCPクライアントのデフォルトゲートウェイとなるアドレスを入力してください。通常は、NXR のインタフェースの IP アドレスを指定します。

ドメイン

DHCPクライアントに割り当てるドメイン名を指定します（任意で指定）。

プライマリ DNS サーバ

セカンダリ DNS サーバ

DHCP クライアントに割り当てる DNS サーバアドレスを指定します（任意で指定）。

プライマリ WINS サーバ

セカンダリ WINS サーバ

DHCP クライアントに割り当てる WINS サーバの IP アドレスを指定します。

スコープ ID

NetBIOS スコープ ID を配布できます。

TCP/IP を介して NetBIOS を実行しているコンピュータでは、同じ NetBIOS スコープ ID を使用するほかのコンピュータとのみ NetBIOS 情報を交換することができます。

プライマリ SIP サーバ / セカンダリ SIP サーバ DHCP クライアントからの SIP サーバ要求に対して、SIP サーバアドレスを割り当てます。

指定可能なアドレスは、IPv4 アドレスまたは FQDN で、最大 2 つまで設定することができます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. DHCP ホスト

DHCP サーバ機能で、固定 IP アドレスを割り当てる場合の設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

DHCP

・ DHCP ホスト

DHCP ホスト

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
(未設定)			
追加			

DHCP ホストの追加

「追加」をクリックします。

MACアドレス	<input type="text"/>
IPアドレス	<input type="text"/>
保存	

MAC アドレス

PC に装着されている LAN ボードなどの MAC アドレスを入力します。

[入力例] 00:11:22:33:ff:ff

IP アドレス

割り当てる IP アドレスを指定します。

[入力例] 172.16.0.200

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DHCP ホストの編集

「編集」をクリックします。

MACアドレス	IPアドレス	編集	削除
00:11:22:33:FF:FF	172.16.0.200	編集	削除
追加			

DHCP ホストの削除

「削除」をクリックします。

DHCP サーバ機能で、固定 IP アドレスを割り当てる場合でも、DHCP ネットワーク設定は必要です。その場合は、「DHCP サーバ設定」画面の「リース開始アドレス」「リース終了アドレス」に、「DHCP ホスト」で指定したアドレス範囲の先頭と末尾の IP アドレスを指定してください。

3. DHCP リレー

DHCP サーバと DHCP クライアントは、通常同じネットワークにないと通信できません。しかし、DHCP リレー機能を使うことで、異なるネットワークにある DHCP サーバを利用できるようになります。(NXR が DHCP クライアントからの要求と DHCP サーバからの応答を中継します。)

NAT 機能を使用している場合は、DHCP リレー機能は使用できません。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

DHCP

・ DHCP リレー

DHCP リレー

DHCPサーバアドレス	<input type="text"/>
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
保存	

DHCP サーバアドレス

上位の DHCP サーバの IP アドレスを指定します。

DHCP 受信インタフェース

DHCP サーバ機能と同時に運用する場合を考慮して、クライアントからの BOOTP Request パケットを受信するインタフェースを指定することができます。

DHCP受信インタフェース	指定しない ▼
DHCP受信インタフェース	指定しない ethernet0 ethernet1

プルダウンから、該当するインタフェース(または「指定しない」)を選択します。

指定したインタフェース以外で受信した BOOTP Request はドロップされます。

指定しない場合は、どのインタフェースで BOOTP Request パケットを受信してもリレーされます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

DNS

LAN内の各ホストのDNSサーバ設定に本装置のIPアドレスを指定することによって、ISPから指定されたDNSサーバや任意のDNSサーバへリレーすることができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

・DNS

DNS

起動 / 停止

サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。

タイムアウト

DNSサーバへの問い合わせが無応答の場合のタイムアウトを設定します。

5-30[秒]で設定できます。初期設定は30秒です。使用環境によっては、DNSキャッシュのタイムアウトよりもブラウザなどのアプリケーションのタイムアウトが早く発生する場合があります。この場合は、DNSキャッシュのタイムアウトを調整してください。

ルートDNS転送

設定したDNSサーバへの問い合わせに失敗した場合や、DNSサーバの指定が無い場合に、ルートサーバへ問い合わせをするかどうかを設定します。プルダウンから「有効」/「無効」を選択します。

[DNSサーバ]

サーバアドレス

任意のDNSサーバのIPアドレスを入力してください。

PPPoE接続時、ISPから指定されたDNSサーバへリレーする場合は本設定の必要はありません。

[プライオリティ]

ユーザ

ppp0/ppp1/ppp2/ppp3/ppp4

DHCPクライアント

1-20の間で設定します。デフォルト値は20です。同一プライオリティの場合の優先順位は、下記のとおりです。

ユーザ > ppp4 > ppp3 > ppp2 > ppp1 > ppp0 > DHCP

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

WarpLink

WarpLinkサービスのクライアントとして動作します（WarpLink Manager に対して、本装置の機器情報を HTTPS で送信します）。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

- ・WarpLink

WarpLink

起動 / 停止

サービスの「起動」 / 「停止」をプルダウンから選択します。デフォルトは「停止」です。

- ・「起動」を選択すると、ダイナミック DNS が有効になり、本装置の WAN 側 IP アドレスを定期的（5 分間隔）に送信します。

ユーザー名

WarpLink サービスのユーザー ID を入力します。

パスワード

WarpLink サービスのパスワードを入力します。

Syslog 情報送信

Syslog 情報送信の「有効」 / 「無効」をプルダウンから選択します。デフォルトは「無効」です。

- ・「有効」を選択すると、本装置の syslog 情報を定期的（5 分間隔）に送信します。
- ・サービスが停止（ダイナミック DNS が無効）の場合は、syslog 情報は送信されません。
- ・syslog 情報は、前回からの差分を最大 100 キロバイト まで送信します。

統計情報インタフェース

統計情報インタフェースをプルダウンで指定します。デフォルトは「指定しない」です。

- ・インタフェースを指定すると、本装置の CPU 使用率、メモリ使用率および当該インタフェースのトラフィック量を定期的（5 分間隔）に送信します。
- ・サービスが停止（ダイナミック DNS が無効）の場合は、統計情報は送信されません。
- ・統計情報は、30 秒間隔で取得したデータの 3 分間の平均を 3 日分保持します。
- ・インタフェースは、2 つまで指定することができます。未指定の場合、統計情報は送信されません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

NTP

本装置は、NTPサーバ/クライアント機能を持っています。インターネットを使った時刻同期手法の一つであるNTP(Network Time Protocol)を用いてNTPサーバと通信を行い、時刻を同期させることができます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ネットワーク

- ・NTP

NTP

起動 / 停止

サービスの「起動」/「停止」をプルダウンから選択します。

同期タイムアウト

サーバ応答の最大待ち時間を1-30[秒]の間で設定できます。

[プライマリ]

アドレス

NTPサーバのIPアドレスを入力します。
NTPサーバのIPアドレスを入力しない場合は、本装置はNTPサーバとしてのみ動作します。

(ポーリング最小値)

4-16の間で指定します。デフォルト値は6です。

(ポーリング最大値)

5-17の間で指定します。デフォルト値は10です。

「(ポーリング最小値)」「(ポーリング最大値)」によって、NTPサーバと通信をおこなう間隔を設定します。

サーバとの接続状態により、指定した最小値と最大値の範囲でポーリングの間隔を調整します。

Polling 間隔 X(sec)を指定した場合、秒単位での間隔は2のX乗(秒)となります。

< 例 4:16 秒、6:64 秒、... 10:1024 秒 >

[セカンダリ]

アドレス

(ポーリング最小値) / (ポーリング最大値)
必要に応じて、プライマリと同様に設定します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第7章

VPN

1. IPsec トンネル

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

・ IPsec トンネル

IPsec トンネル

IPsec トンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
(未設定)									
<input type="button" value="更新"/>									
<input type="button" value="追加"/>									

IPsec トンネルの追加

IPsec トンネルを追加するには、「追加」をクリックします。

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

IPsec トンネル	
設定の追加	
説明	<input type="text"/>
相手装置の設定	
ISAKMP動作モード	固定 <input type="button" value="v"/>
リモートアドレス	<input type="text"/>
リモートID	<input type="text"/>
認証鍵(Pre-Shared Key)	<input type="text"/>
キーブアライブ	再接続 <input type="button" value="v"/>
自装置の設定	
自分のID	<input type="text"/>
インタフェース	(選択して下さい) <input type="button" value="v"/>
トンネルの設定	
トンネルモード	ルートベース <input type="button" value="v"/>
送信元アドレス	<input type="text"/>
宛先アドレス	<input type="text"/>
接続方法	自動 <input type="button" value="v"/>
NATトラバース	使用しない <input type="button" value="v"/>
経路情報の設定	
追加する経路情報	<input type="text"/>
<input type="button" value="保存"/>	

説明

IPsec トンネルの説明を記述します。

説明	<input type="text" value="vpn1"/>
----	-----------------------------------

- ・ 1 ~ 64 文字の半角英数字 / 記号を使用することが出来ます。

【相手装置の設定】

ISAKMP 動作モード

ISAKMP 動作モード (「固定」 / 「動的」) を、プルダウンから選択します。

ISAKMP動作モード	固定 <input type="button" value="v"/>
	固定 <input type="button" value="v"/>
	動的 <input type="button" value="v"/>

- ・ 本装置とリモート (対向装置) が、どちらも固定 IP アドレスの場合は、「固定」を選択します。
- ・ 本装置またはリモート (対向装置) のどちらか一方が、動的 IP アドレスの場合は、「動的」を選択します。

リモートアドレス

リモートアドレス (対向装置の IPv4 アドレス) を A.B.C.D のフォーマットで入力します。

リモートアドレス	<input type="text" value="192.168.1.254"/>
----------	--

- ・ リモートアドレスが、動的 IP アドレスの場合は、空欄にします。

リモート ID

リモート ID (対向装置の ID) を、FQDN 形式で入力します。

リモートID	<input type="text" value="nxr2"/>
--------	-----------------------------------

- ・ 未設定時は、リモートアドレスを、リモート ID として使用します。

【自装置の設定】

自分の ID

本装置の ID を、FQDN 形式で入力します。

自分のID | nxr1

インタフェース

IPsec で使用するインタフェースを、プルダウンから選択します。

自分のID | nxr1
 (選択して下さい) ▼
 (選択して下さい)
 ethernet0
 ethernet1
 ppp0
 ppp1
 ppp2
 ppp3
 ppp4

認証鍵 (Pre-Shared Key)

PSK 認証で使用する認証鍵を設定します。

認証鍵(Pre-Shared Key) | password

- ・ リモート (対向装置) でも、同じ認証鍵を設定します。

キーブアライブ

IPsec キーブアライブの設定を、プルダウンから選択します。

キーブアライブ | 使用しない ▼
 再接続
 クリア
 ホールド
 使用しない

- ・ キーブアライブを使用する場合、DPD エラー時のアクション設定として、「再接続」/「クリア」/「ホールド」を選択します。
- ・ キーブアライブを使用しない場合、「使用しない」を選択します。

キーブアライブ

キーブアライブ (DPD) でエラーを検出した場合、IKE SA および IPsec policy を削除します。

その後の動作は、DPD エラー時のアクション設定に依存します。

「クリア」

IKE SA および IPsec policy の削除後は、ユーザの指示を待ちます。

「ホールド」

IKE SA の削除後は、IPsec policy のみが有効になります。IPsec policy にマッチするパケットを受信すると IKE phase1 ネゴシエーションを開始します。

ただし、「接続方法」でレスポnderに設定している場合は、IKE ネゴシエーションしません。

「再接続」

IKE SA および IPsec policy の削除後に、IKE phase1 を開始します。

ただし、「接続方法」でレスポnderに設定している場合は、IKE ネゴシエーションしません。

[トンネルの設定]

トンネルモード

トンネルモードの設定を、プルダウンから選択します。

トンネルモード	ルートベース ルートベース ポリシーベース
---------	-----------------------------

「ポリシーベース」

ポリシーベースとして動作する場合、ルーティングテーブルに関係なく、ポリシーにマッチするパケットは、すべてESP化されます。

IPsec ESP化されるパケットに対して、フィルタリングやNATを行うことは出来ません。

「ルートベース」

ルートベースとして動作する場合、「追加する経路情報」の設定に従って、ESP化するかどうかを決定します。

迂回経路の確保やmain/backup tunnelの常時確立が出来る等の利点があります。

送信元アドレス

送信元アドレス（LAN側ネットワークアドレス）を設定します。

送信元アドレス	1.1.1.0/24
---------	------------

宛先アドレス

宛先アドレス（LAN側ネットワークアドレス）を設定します。

宛先アドレス	2.2.2.0/24
--------	------------

接続方法

接続方法の設定を、プルダウンから選択します。

接続方法	自動 自動 手動 オンデマンド レスポンダー
------	------------------------------------

「自動」

IPsecサービス起動時に、ネゴシエーションを開始します。

「手動」

IPsecサービス起動時に、（tunnelを追加するだけで）ネゴシエーションを開始しません。Backup policyなどで使用します。

「オンデマンド」

IPsecサービス起動時に、ルートのみを設定します。

「レスポナー」

IPsecサービス起動時の動作は、「手動」と同様です。

ただし、いかなる場合（rekeyを含む）においても、こちらから開始することはありません。

NATトラバーサル

NATトラバーサルの設定を、プルダウンから選択します。

NATトラバーサル	使用しない 使用しない 使用する
-----------	------------------------

- ・NAT装置の配下に、本装置が設置されている状態で、IPsec接続を行う場合は、「使用する」を選択します。

[経路情報の設定]

追加する経路情報

IPsec ESP化するパケットの宛先アドレス (LAN側ネットワークアドレス) を追加します。

追加する経路情報	<input type="text" value="3.3.3.0/24"/>
----------	---

- ・トンネルモードで「ルートベース」を選択した場合に、設定することが出来ます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPsec トンネルの状態

IPsecトンネル							更新		
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

「表示」をクリックすると、IPsec トンネルの状態を表示します。

```

IPsecトンネル
情報表示 (tunnel 1)
更新 閉じる

000 "tunnel": 1.1.1.0/24===1.2.3.120[nrx1]...1.2.3.4[nrx2]===2.2.2.0/24; erouted; es
000 "tunnel": ike_life: 10800s; ipsec_life: 3600s; margin: 270s; inc_ratio: 100%
000 "tunnel": newest ISAKMP SA: #3; newest IPsec SA: #4;
000 "tunnel": IKE proposal: AES_CBC_128/HMAC_SHA2_256/MDOP_1024
000 "tunnel": ESP proposal: AES_CBC_128/HMAC_SHA2_256/
000
000 #4: "tunnel" STATE_QUICK_R2 (IPsec SA established); EVENT_SA_REPLACE in 545s; new
000 #4: "tunnel" esp.3b543803@1.2.3.4 (0 bytes) esp.308d6407@1.2.3.120 (0 bytes); tun
000 #3: "tunnel" STATE_MAIN_R3 (sent MR3, ISAKMP SA established); EVENT_SA_REPLACE in
000 #2: "tunnel" STATE_QUICK_I2 (sent QI2, IPsec SA established); EVENT_SA_REPLACE in
000 #2: "tunnel" esp.59015d85@1.2.3.4 (0 bytes) esp.27a13dia@1.2.3.120 (0 bytes); tun
000 #1: "tunnel" STATE_MAIN_I4 (ISAKMP SA established); EVENT_SA_REPLACE in 7364s
000
Connections:
Security Associations:
no match
    
```

- ・「更新」をクリックすると、最新の状態を取得することが出来ます。
- ・「閉じる」をクリックすると、画面を閉じます。

第7章 VPN

IPsec

IPsec トンネルの編集（基本設定）

「編集」をクリックすると、IPsec トンネルの基本設定を編集することが出来ます。

IPsecトンネル							更新		
説明	番号	本装置側 LAN側	相手側 ID又はアドレス	相手側 ID又はアドレス	LAN側	状態	編集	削除	複製
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

下記画面にて、各項目の編集を行います。

IPsecトンネル	
トンネル1 基本設定 詳細設定	
説明	vpn1
相手装置の設定	
ISAKMP動作モード	固定
リモートアドレス	1.2.3.4
リモートID	nrx2
認証鍵(Pre-Shared Key)	password
キーブライブ	再接続
自装置の設定	
自分のID	nrx1
インタフェース	ethernet1
トンネルの設定	
トンネルモード	ルートベース
送信元アドレス	1.1.1.0/24
宛先アドレス	2.2.2.0/24
接続方法	自動
NATトランスバースル	使用しない
経路情報の設定	
追加する経路情報	
<input type="checkbox"/> 削除	3.3.3.0/24
保存	

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

経路情報を削除するには、「削除」のチェックボックスをチェックして、「保存」をクリックします。

<input checked="" type="checkbox"/> 削除	3.3.3.0/24
保存	

IPsec トンネルの編集（詳細設定）

「詳細設定」をクリックすると、IPsec トンネルの詳細設定を編集することが出来ます。

IPsecトンネル	
トンネル1 基本設定	詳細設定

[相手装置の設定]

ハッシュアルゴリズム

プルダウンから、ハッシュアルゴリズムを選択します。

・初期値は、「SHA256」です。

ハッシュアルゴリズム	SHA256
	MD5
	SHA1
	SHA256
	SHA384
	SHA512

暗号化アルゴリズム

プルダウンから、暗号化アルゴリズムを選択します。

・初期値は、「AES128」です。

暗号化アルゴリズム	AES128
	DES
	3DES
	AES128
	AES192
	AES256

DHグループ

プルダウンから、DHグループを選択します。

・初期値は、DHグループ「2」です。

DHグループ	2
	1
	2
	5
	14
	15
	16
	17
	18

ライフタイム

ライフタイム (121-86400[sec]) を設定します。

・初期値は、「10800」です。

ライフタイム	10800
--------	-------

. IPsec

インターバル

キーブアライブインターバル (10-3600[sec]) を設定します。

- ・初期値は「30」秒です。

インターバル

回数

キーブアライブのリトライ回数 (0-60[回]) を設定します。

- ・初期値は、「3」回です。

回数

[トンネルの設定]

プライオリティー

トンネルポリシーのプライオリティ (1-255) を設定します。

- ・初期値は、「1」です。

プライオリティー

認証アルゴリズム

プルダウンから、認証アルゴリズムを選択します。

- ・初期値は、「ESP-AES128」です。

認証アルゴリズム

- ESP-AES128
- ESP-AES192
- ESP-AES256
- ESP-DES
- ESP-3DES
- ESP-NULL

暗号化アルゴリズム

プルダウンから、暗号化アルゴリズムを選択します。

- ・初期値は、「ESP-SHA256-HMAC」です。

暗号化アルゴリズム

- ESP-SHA256-HMAC
- ESP-SHA1-HMAC
- ESP-MD5-HMAC
- ESP-SHA256-HMAC
- ESP-SHA384-HMAC
- ESP-SHA512-HMAC

PFS(DHグループ)

プルダウンから、PFS(DHグループ)を選択します。

- ・初期値は、「Phase1」です。

PFS(DHグループ)

- Phase1
- Phase1
- Group1
- Group2
- Group5
- Group14
- Group15
- Group16
- Group17
- Group18
- 使用しない

SA ライフタイム

IPsec SA のライフタイム (1081-86400[sec]) を設定します。

- ・初期値は、「3600」です。

SA ライフタイム

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPsec トンネルの削除

「削除」をクリックすると、トンネルを削除することが出来ます。

IPsecトンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

IPsec トンネルの複製

「設定の複製」をクリックすると、既存設定の複製を作成することが出来ます。

IPsecトンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

下記画面にて、項目の編集を行います。

IPsecトンネル	
設定の複製	
説明	Copy_of_vpn1
相手装置の設定	
ISAKMPポリシー	追加する
ISAKMP動作モード	固定
リモートアドレス	1.2.3.4
リモートID	nrx2
認証鍵(Pre-Shared Key)	password
キーブアライブ	クリア
自装置の設定	
設定	追加する
自分のID	nrx1
インタフェース	ethernet1
トンネルの設定	
トンネルモード	ルートベース
送信元アドレス	1.1.1.0/24
宛先アドレス	2.2.2.0/24
接続方法	自動
NATトラバース	使用しない
経路情報の設定	
追加する経路情報	
保存	

「保存」をクリックすると、設定の複製が作成されます。

IPsecトンネル									
説明	番号	本装置側		相手側		状態	編集	削除	複製
		LAN側	ID又はアドレス	ID又はアドレス	LAN側				
vpn1	1	1.1.1.0/24	nrx1	nrx2	2.2.2.0/24	表示	編集	削除	複製
Copy_of_vpn1	2	1.1.1.0/24	nrx1	nrx3	3.3.3.0/24	表示	編集	削除	複製
追加									

2. IPsec 全体設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

- ・ IPsec 全体設定

IPsec 全体設定

● IPsec全体設定	
NATトラバース	使用しない ▼
Priority Ignore	使用しない ▼
保存	

NATトラバース

「使用する」「使用しない」をプルダウンから選択します。

NATトラバース	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・ NAT 装置の配下に、本装置が設置されている状況で、IPsec 接続を行う場合は、「使用する」を選択します。

Priority Ignore

「使用する」「使用しない」をプルダウンから選択します。

Priority Ignore	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

Priority Ignore

PriorityによるIPsec SAの優先度を無効にする機能です。

「ルートベース」を利用している場合のみ有効です。

- ・ 「ルートベース」では、phase2のIDは、IPsec SAを確立するためのIDとしてのみ使用します。そのため、Priorityによる冗長化etcの機能を利用しない場合は、本機能を有効にすることによって、同じphase2 IDを持つ複数個のIPsec SAを同時に確立することが出来ます。
- ・ ルートベースIPsec間、またはルートベースIPsecとポリシーベースIPsec間での重複が可能です。ポリシーベースIPsec間での重複は出来ません。
- ・ 本機能は、ISPのVPNサービスetcで、phase2のIDをany/anyで指定するような場合に、利用することが出来ます。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

3. IPsec 認証設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

IPsec

・IPsec 認証設定

証明書

- 証明書			
CA証明書	ファイルを選択	選択されていません	追加
CA失効リスト	ファイルを選択	選択されていません	追加
X509証明書	追加	(未設定)	

CA 証明書の追加

「ファイルを選択」をクリックして、CA 証明書を指定します。

「追加」をクリックします。

DER (*.der, *.cer)またはPEM (*.pem)フォーマットの証明書をインポートすることができます。
 ・ファイルの拡張子を変更しないでください。なお、シングルDESで暗号化された鍵ファイルを使用することは出来ません。

CA 失効リストの追加

「ファイルを選択」をクリックして、CA 失効リストを指定します。

「追加」をクリックします。

X.509 証明書の追加

X.509 証明書の「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

X.509証明書	
証明書	ファイルを選択 選択されていません
プライベートキー	ファイルを選択 選択されていません
パスワード	<input type="text"/>
保存	

証明書

「ファイルを選択」をクリックして、証明書を指定します。

プライベートキー

「ファイルを選択」をクリックして、プライベートキーを指定します。

パスワード

パスワードを入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

CA 証明書の削除

「削除」をクリックします。

- 証明書		
CA証明書	CA証明書.1 ▶ /C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除
CA失効リスト	CA失効リスト.1 ▶ issuer=/C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除
X.509証明書	X.509証明書.1 ▶ /C=JP/ST=Tokyo/O=CS/OU=SW2/CN=CA	削除

CA 失効リストの削除

「削除」をクリックします。

X.509 証明書の削除

「削除」をクリックします。

XAuth アカウント

- XAuthアカウント	
ユーザ名	編集 削除
(未設定)	
追加	

XAuth アカウントの追加

XAuth アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

XAuthアカウント	
ユーザ名	(必須)
パスワード	(必須)
保存	

ユーザ名

ユーザ名を入力します (必須)。

パスワード

パスワードを入力します (必須)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

XAuth アカウントの編集

「編集」をクリックします。

- XAuthアカウント	
ユーザ名	編集 削除
XauthUser	編集 削除
追加	

XAuth アカウントの削除

「削除」をクリックします。

PSK アカウント

- PSKアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

EAP アカウント

- EAPアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
(未設定)			
追加			

PSK アカウントの追加

PSK アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

PSKアカウント	
タイプ	FQDN ▼
ユーザ名	(必須) <input type="text"/>
パスワード	(必須) <input type="text"/>
保存	

EAP アカウントの追加

EAP アカウントの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

EAPアカウント	
タイプ	KEY-ID ▼
ユーザ名	(必須) <input type="text"/>
パスワード	(必須) <input type="text"/>
保存	

タイプ

プルダウンから、タイプ (「FQDN」 / 「USER@FQDN」 / 「KEY-ID」) を選択します。

タイプ	KEY-ID ▼
	KEY-ID
	ストリング

タイプ

プルダウンから、タイプ (「KEY-ID」 / 「ストリング」) を選択します。

タイプ	KEY-ID ▼
	KEY-ID
	ストリング

ユーザ名

ユーザ名を入力します (必須)。

ユーザ名

ユーザ名を入力します (必須)。

パスワード

パスワードを入力します (必須)。

パスワード

パスワードを入力します (必須)。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

PSK アカウントの編集

「編集」をクリックします。

- PSKアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
fqdn	PSKUSER	編集	削除
追加			

EAP アカウントの編集

「編集」をクリックします。

- EAPアカウント			
タイプ	ユーザ名	編集	削除
key	EAPUSER	編集	削除
追加			

PSK アカウントの削除

「削除」をクリックします。

EAP アカウントの削除

「削除」をクリックします。

EAP-RADIUS サーバ

EAP-RADIUSサーバ	
アドレス	認証ポート番号
(未設定)	
追加	

EAP-RADIUS サーバの追加

EAP-RADIUS サーバの「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

EAP-RADIUSサーバ	
アドレス	(必須)
認証ポート番号	1812
シークレット	(必須)
NAS ID	
保存	

アドレス

アカウント認証を行うRADIUSサーバのアドレス (A.B.C.D) を入力します (必須)。

認証ポート番号

プルダウンから、認証ポート番号 (「1645」 / 「1812」 / 「指定する」) を選択します。

認証ポート番号	1812
	1645
	1812
	指定する

「指定する」を選択した場合は、ポート番号 (1024-65535) を指定します。

シークレット

シークレット (秘密鍵) を入力します (必須)。

NAS ID

任意の文字 (32文字以内) を指定することが可能です。

Default は、機種名 - IPsec (ex. NXR120-IPsec) です。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

EAP-RADIUS サーバの編集

「編集」をクリックします。

EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
1.1.1.1	1812		編集	削除

EAP-RADIUS サーバの削除

「削除」をクリックします。

EAP-RADIUSサーバ				
アドレス	認証ポート番号	NAS ID	編集	削除
1.1.1.1	1812		編集	削除

1. L2TPv3 接続設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

L2TPv3

・L2TPv3 接続設定

L2TPv3 接続設定

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
(未設定)								
<div style="float: right;">更新</div> <div style="clear: both;"></div>								
<div style="float: left;">追加</div>								

L2TPv3 接続設定の追加

「追加」をクリックすると、下記の画面が表示されます。

設定の追加	
説明	<input type="text"/>
トンネルの設定	
リモートRouter ID	<input type="text"/> (必須)
リモートホスト名	<input type="text"/> (必須)
リモートアドレス	<input type="text"/>
Helloインターバル	<input type="text"/> 60
Xconnectの設定	
インタフェース	(選択して下さい) ▼
Remote End ID	<input type="text"/> (必須)
VLAN ID	<input type="text"/>
リトライ間隔	<input type="text"/> 0
保存	

説明

当該L2TPv3トンネル接続設定の説明を記入します。

[トンネルの設定]

リモートRouter ID

リモートLCCEのRouter ID (A.B.C.D)を入力します (必須)。

リモートホスト名

リモートLCCEのホスト名を入力します (必須)。

リモートアドレス

リモートLCCEのトンネルアドレス (A.B.C.D)を入力します。

Helloインターバル

Helloパケットの送信間隔を設定します。

[Xconnect の設定]

インタフェース

プルダウンから、Xconnect インタフェースを選択します。

インタフェース	(選択して下さい) ▼
	(選択して下さい)
	ethernet0
	ethernet1

Remote END ID

リモートLCCEのEND ID(1-4294967295)を設定します (必須)。

VLAN ID

VLAN tagを使用する場合に、VLAN ID(1-4094)を設定します。

リトライ間隔

トンネル/セッションが切断したときに、自動再接続を開始するまでの間隔 (0-1000[秒])を設定します。

「0」を設定した場合は、自動再接続を開始しません。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

L2TPv3 接続設定の二重化設定

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモートRouter ID	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr1	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.1	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr2	2	追加	ethernet0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製

「追加」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

二重化設定の追加	
プライマリ	(選択して下さい) ▼
セカンダリ	(選択して下さい) ▼
Preempt	使用しない ▼
プライマリ強制切断	使用しない ▼
Active Hold	使用しない ▼
MACアドレス広告	使用しない ▼

保存

プライマリ
プルダウンから、プライマリを選択します。

プライマリ	(選択して下さい) ▼ (選択して下さい) No.1:tunnel_to_nxr1 No.2:tunnel_to_nxr2
-------	--

セカンダリ
プルダウンから、セカンダリを選択します(プライマリとセカンダリは、異なるように選択します)。

プライマリ	(選択して下さい) ▼ (選択して下さい) No.1:tunnel_to_nxr1 No.2:tunnel_to_nxr2
-------	--

Preempt
プルダウンから、Preempt の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Preempt	使用しない ▼ 使用しない 使用する
---------	--------------------------

セカンダリセッションが active の状態で、プライマリセッションが確立した時の動作を設定します。

- Preempt を「使用する」場合は、プライマリセッションが active、セカンダリセッションは standby になります。
- Preempt を「使用しない」場合は、セカンダリセッションが active のままです。

プライマリ強制切断
プルダウンから、プライマリ強制切断の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

プライマリ強制切断	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-----------	--------------------------

- 「使用する」場合、プライマリセッションが active に移行した際に、セカンダリセッションを強制的に切断します。
- 本機能を有効にする場合は、Preempt を「使用する」に設定します。

Active Hold
プルダウンから、Active Hold の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Active Hold	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-------------	--------------------------

- 対向の LCCE からリンクダウンを受信した際に、セカンダリセッションへの切り替えを行わずに、プライマリセッションを active のまま維持する機能です。
- 1対1の二重化構成において、対向 LCCE でリンクダウンが発生した際に、プライマリからセカンダリへ active セッションを切り替えたとしても、通信できない状態は変わりません。このような構成では、不要なセッションの切り替えを抑止するために、本機能を「使用する」に設定することを推奨します。

MAC アドレス広告
プルダウンから、MAC アドレス広告の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

MACアドレス広告	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-----------	--------------------------

- グループ機能を使用している構成で、センター側の配下にあるスイッチの MAC テーブルを更新するために、ローカルテーブルに登録されている MAC アドレス情報を元に、疑似フレームを送信することによって、センターにある端末を発信源とする通信が可能となります。

第7章 VPN

. L2TPv3

L2TPv3 接続設定二重化設定の編集

「編集」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモート Router ID	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr1	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.1	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr2	2	追加	ethernet0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製

L2TPv3 接続設定二重化設定の削除

「削除」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモート Router ID	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr1	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.1	編集	削除	複製
tunnel_to_nxr2	2	追加	ethernet0	2	192.168.1.2	編集	削除	複製

L2TPv3 接続設定の編集

「編集」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモート Router ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

L2TPv3 接続設定の削除

「削除」をクリックします。

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモート Router ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

L2TPv3 接続設定の複製

説明	番号	二重化設定	インタフェース	Remote End ID	リモート Router ID	編集	削除	複製
	1	追加	ethernet0	1	192.168.1.254	編集	削除	複製

「複製」をクリックすると、以下の画面が表示されます。

設定の複製	
説明	Copy_of_Xconnect1
トンネルの設定	
トンネル	追加する ▼
リモート Router ID	192.168.1.254
リモートホスト名	nxr
リモートアドレス	192.168.1.254
Hello-インターバル	60
Xconnectの設定	
インタフェース	ethernet0 ▼
Remote End ID	1
VLAN ID	
リトライ間隔	10
保存	

[トンネルの設定]

トンネル

トンネルを追加する場合は、「追加する」を選択します。

トンネルを共有する場合は、既存のトンネルを選択します。

トンネル	No.0 ▼
	追加する
	No.0

その他の項目については、[L2TPv3 接続設定の追加](#)を参照してください。

2. L2TPv3 全体設定

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

VPN

L2TPv3

・L2TPv3 全体設定

L2TPv3 全体設定

ローカルRouter ID	192.168.1.120
ローカルホスト名	nrx120
MACアドレス学習	
MACアドレス学習	使用する ▼
Always機能	使用しない ▼
Unique機能	使用しない ▼
MACアドレスエージングタイム	300
L2TPv3 over UDP	
UDP送信元ポート番号	
UDP Path MTU Discovery	使用しない ▼
ToS	
ToS	使用しない ▼
トンネルToS値	
その他機能	
Path MTU Discovery	使用しない ▼
Loop Detect	使用しない ▼
Send Known Unicast	使用しない ▼
保存	

ローカルRouter ID

ローカルLCCEのRouter ID (A.B.C.D)を入力します。

ローカルホスト名

ローカルLCCEのホスト名を設定します。

[MACアドレス学習]

MACアドレス学習

プルダウンから、MACアドレス学習の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

MACアドレス学習	使用する ▼
	使用する
	使用しない

- ・本装置が受信したフレームのMACアドレスを学習し、不要なトラフィックの転送を抑制する機能です。
- ・ブロードキャスト、マルチキャストについては、本設定に関係なく、すべて転送します。

Always 機能

プルダウンから、Always 機能の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Always機能	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・MACアドレス広告を「使用する」にした場合、アクティブセッションが作成されたときに、MACアドレス広告を行います。Xconnectに関連するセッションが1つも確立されていない場合は、ローカルテーブルにてMACアドレスが学習されない為、ローカルテーブルにMACアドレス情報が存在しません。
- ・Always機能を「使用する」に設定すると、セッションが1つも確立されていない場合でも、ローカルテーブルにMACアドレス学習を行います。

Unique 機能

プルダウンから、Unique 機能の設定(「使用する」/「使用しない」)を選択します。

Unique機能	使用しない ▼
	使用しない
	使用する

- ・ネットワーク構成によっては、ある一つのXconnectのLocal Table、FDBに、同じMACアドレスが登録されることがあります。本機能を有効にすると、新しく学習したMACアドレスが、ocal Table、FDBのどちらか一方に登録されるため、上記のような状態を回避することが出来ます。
- ・ある一つのXconnectで、Loop Detect機能と共存した場合、Loop Detectのフレームドロップ処理を優先します。つまり、この場合は、MACアドレス学習Unique機能は、動作しないことになります。

MACアドレスエージングタイム

本装置が学習したMACアドレスの保持時間(30-1000[秒])を設定します。

- ・初期値は、300[秒]です。

[L2TPv3 over UDP]

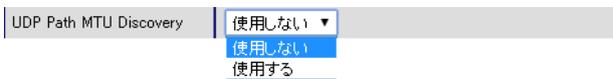
UDP 送信元ポート番号

L2TPv3 over UDP 使用時の送信元ポート番号 (1024-65535) を指定することができます。

- ・初期値は、1701 です。

UDP Path MTU Discovery

プルダウンから、UDP Path MTU Discovery の設定 (「使用する」/「使用しない」) を選択します。



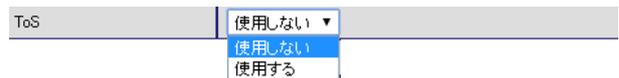
L2TPv3 over UDP 使用時に、Path MTU Discovery の設定 (「使用する」/「使用しない」) を行います。

- ・本機能を有効にした場合、送信する L2TPv3 パケットの DF (Don't Fragment) ビットを 1 にします。
- ・無効にした場合は、DF ビットを常に 0 にします。
- ・ただし、カプセル化したフレーム長が送信インタフェースの MTU 値を超過する場合は、本設定に関係なく、フラグメントの上、DF ビットを 0 にして送信します。

[L2TPv3 over UDP]

ToS

プルダウンから、ToS 設定 (「使用する」/「使用しない」) を選択します。



・L2TPv3 にてトンネリングされるフレームの L3 プロトコルが IP/IPv6 の場合に、IP/IPv6 ヘッダの ToS 値やユーザが指定した ToS 値を、L2TPv3 セッションパケットの IP ヘッダの IPv4 ToS field に設定する機能です。

- ・Control message は、0xd0 で送信します。

トンネル ToS 値

L2TPv3 ToS 設定を「使用する」場合に、

- ・Control message の ToS 値 (0-252 [0x00-0xfc]) を指定することが出来ます。
- ・初期値は、208 (0xd0) です。

L2TPv3 ToS 設定を「使用しない」場合、

- ・Control message の ToS 値は、固定 (0xd0) です。

[その他機能]

Path MTU Discovery

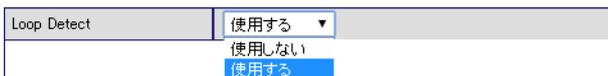
プルダウンから、Path MTU Discoveryの設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



・L2TPv3 over IP 使用時に、Path MTU Discovery の設定（「使用する」 / 「使用しない」）を行います。

Loop Detect

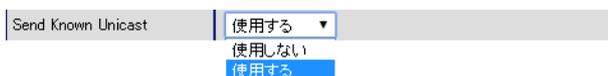
プルダウンから、Loop Detect の設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



- ・フレームの転送がループしてしまうことを防ぐ機能です。この機能が有効になっているときは、以下の2つの場合にフレームの転送を行いません。
- ・Xconnect インタフェースより受信したフレームの送信元 MAC アドレスが、FDB に存在するとき。
- ・L2TPv3 セッションより受信したフレームの送信元 MAC アドレスが、ローカル MAC テーブルに存在するとき。

Send Known Unicast

プルダウンから、Send Known Unicast の設定（「使用する」 / 「使用しない」）を選択します。



- ・Known unicast フレームとは、MAC アドレス学習済みの unicast フレームのことです。この機能を「使用しない」に設定すると、以下の場合に unicast フレームの転送を行いません。
- ・Xconnect インタフェースより受信した unicast フレームの送信先 MAC アドレスが Local MAC テーブルに存在する場合。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

第8章

ファイアウォール

第8章 ファイアウォール

アクセスリスト

1. IPv4 アクセスリスト

IPv4 アクセスリストの設定をおこないます。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

ファイアウォール

アクセスリスト

・ IPv4 アクセスリスト

IPv4 アクセスリスト

IPv4アクセスリスト								
アクセスリスト名	動作	送信元アドレス 宛先アドレス	プロトコル	ICMP Type Code	送信元ポート 宛先ポート	TCP Syn	送信元MACアドレス	編集 削除
(未設定)								
追加								

IPv4 アクセスリストの追加

「追加」をクリックします。

アクセスリスト名	<input type="text"/>
動作	許可
送信元アドレス	<input type="text"/>
宛先アドレス	<input type="text"/>
プロトコル	
プロトコル	全て
プロトコル	<input type="text"/>
ICMPオプション	
ICMP Type	<input type="text"/>
ICMP Code	<input type="text"/>
送信元ポート	
開始ポート	<input type="text"/>
終了ポート	<input type="text"/>
宛先ポート	
開始ポート	<input type="text"/>
終了ポート	<input type="text"/>
TCPオプション	
TCP Syn	無効
送信元MACアドレス	<input type="text"/>
送信元MACアドレス	<input type="text"/>

アクセスリスト名

アクセスリスト名を指定します。

動作

アクセスリストにマッチングするパケットの「許可」/「破棄」をプルダウンから選択します。

動作	許可
	許可
	破棄

送信元アドレス

送信元 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。

[入力例]

ホストアドレス 192.168.253.10

ネットワークアドレス 192.168.253.0/24

any の場合は、空欄のままにします。

宛先アドレス

宛先 IP アドレスを入力します。ホストアドレスのほか、ネットワークアドレスでの指定が可能です。入力方法は、「送信元アドレス」と同様です。

[プロトコル]

プロトコル

プロトコルをプルダウンから選択します。

プロトコル	全て
	全て
	ICMP
	TCP
	UDP
	数値指定

プロトコル

上記で「数値指定」を選択した場合に、プロトコル番号 <0-255> を入力します。

プロトコル	数値指定
プロトコル	6

[ICMP オプション]

ICMP Type

0-255 の範囲で ICMP Type を指定します。

「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

ICMP Code

0-255 の範囲で ICMP Code を指定します。

「プロトコル」で「ICMP」を選択した場合に、入力可能です。

第8章 ファイアウォール

アクセスリスト

[送信元ポート]

開始ポート / 終了ポート

1-65535 の範囲で指定します。

「プロトコル」で「TCP」 / 「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[宛先ポート]

開始ポート / 終了ポート

1-65535 の範囲で指定します。

「プロトコル」で「TCP」 / 「UDP」を選択した場合に、入力可能です。

[TCP オプション]

TCP Syn

Syn フラグをチェックする場合は「SYN」を選択してください。

「プロトコル」で「TCP」を選択した場合に、選択可能です。

TCP Syn	無効
	無効
	SYN

[送信元 MAC アドレス]

送信元 MAC アドレス

送信元 MAC アドレスをチェックする場合は、対象 MAC アドレスを HH:HH:HH:HH:HH:HH のフォーマットで入力します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

IPv4 アクセスリストの編集

「編集」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス		プロトコル	ICMP		送信元ポート		TCP	送信元MACアドレス	編集
		宛先アドレス	Type		Code	宛先ポート	Syn				
test1 削除	許可	192.168.0.0/24	tcp				1025-65535			00:11:22:33:44:55	編集
		192.168.100.0/24					削除				

IPv4 アクセスリストの削除

「削除」をクリックします。

アクセスリスト名	動作	送信元アドレス		プロトコル	ICMP		送信元ポート		TCP	送信元MACアドレス	編集
		宛先アドレス	Type		Code	宛先ポート	Syn				
test1 削除	許可	192.168.0.0/24	tcp				1025-65535			00:11:22:33:44:55	編集
		192.168.100.0/24					削除				

第9章

ユーザインタフェース

第9章 ユーザインタフェース

SSH

1. SSH サービス

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース

SSH

・SSH サービス

SSH サービス

起動/停止	停止
SSHバージョン	SSHv1/SSH2
addressファミリ	IPv4/IPv6
ポート番号	
ポート番号	22
ポート番号	

保存

IP アドレス割当方式

「起動」 / 「停止」をプルダウンから選択します。

起動/停止	停止
	起動
	再起動

SSHバージョン

「SSHv1/SSHv2」 / 「SSHv1」 / 「SSHv2」をプルダウンから選択します。

SSHバージョン	SSHv1/SSH2
	SSHv1
	SSHv2

addressファミリ

「IPv4/IPv6」 / 「IPv4」 / 「IPv6」をプルダウンから選択します。

addressファミリ	IPv4/IPv6
	IPv4
	IPv6

[ポート番号]

ポート番号

SSHサーバのポート番号を指定します。デフォルト値は22です。

ポート番号

SSHサーバのセカンダリポート番号を指定します。

2. SSH 鍵(netconf)

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザインタフェース

SSH

・SSH 鍵(netconf)

SSH 鍵 (netconf)

ID	種別	フィンガープリント	鍵長	削除
		(未設定)		

追加

SSH 鍵の追加

「参照」をクリックして、ファイル(SSH公開鍵)を指定します。「保存」をクリックすると、SSH鍵が設定されます。

ID	種別	フィンガープリント	鍵長	削除
0	RSA	13:12:cc:b4:65:ff:22:eb:ef:7c:77:69:58:c8:a9:f0	2048	削除

公開鍵ファイルを設定しました

SSH 鍵の削除

「削除」をクリックします。

ID	種別	フィンガープリント	鍵長	削除
0	RSA	13:12:cc:b4:65:ff:22:eb:ef:7c:77:69:58:c8:a9:f0	2048	削除

1. NETCONF

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ユーザインタフェース

NETCONF

・NETCONF

NETCONF

NETCONF	
サービス	停止
lockタイムアウト	60
auto configuration	使用しない

保存

サービス

NETCONF サービスの「起動」/「停止」を設定します。

プルダウンから「停止」/「TCP サービス起動」/「OverSSH 有効」を選択します。

サービス	停止
	停止
	TCPサービス起動
	OverSSH有効

lock タイムアウト

NETCONF による設定変更時に lock が行われます。lock 状態では、他の管理サーバまたは CLI/GUI からの設定変更は出来ません。また、CLI/GUI あるいは他の管理サーバから設定変更が行われている状態では、lock を行うことは出来ません。lock 状態が解除されるまでの時間を 10-3600[秒]の間で設定します。デフォルト値は 60[秒]です。

auto configuration

auto configuration の「有効」/「無効」を設定します。

プルダウンから「使用しない」/「使用する」を選択します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

1. CRP グローバル

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
ユーザーインターフェース

CRP

- ・CRP グローバル

CRP グローバル

送信元ポート	10625
ホスト名	
カスタマーID	
CPE ID	
CRP Advertise	編集

保存

送信元ポート

CRPの送信元UDPポートを1024-65535の間で設定します。デフォルト値は、10625です。

ホスト名

広告するホスト名を指定します。設定がない場合、システム設定

- ・ホスト名

で指定されたホスト名を広告します。

カスタマーID

カスタマーIDを指定します。管理サーバ側のテナントコードと一致させてください。

CPE ID

CPE IDを指定します。管理サーバ側の機器コードと一致させてください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

CRP Advertise

「編集」をクリックします。

モード	無効
primary	
アドレスfamily	(指定しない)
インタフェース	指定しない
アドレス	
ポート番号	
secondary	
アドレスfamily	(指定しない)
インタフェース	指定しない
ポート番号	

保存

モード

プルダウンから「無効」/「インタフェース」/「アドレス」/「NAT」を選択します。

第9章 ユーザインタフェース

CRP

[primary]

アドレス family

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。

プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。

アドレスfamily	(指定しない) ▼
	(指定しない)
	IPv4
	IPv6

インタフェース

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。プルダウンから、インタフェースを選択します。

選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。

「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」

「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」

インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

アドレス

「モード」で「アドレス」を選択した場合に入力することができます。

広告する本装置のIPv4アドレス、またはIPv6アドレスを指定します。

アドレス	<input type="text"/>
------	----------------------

ポート番号

「モード」で「インタフェース」、「アドレス」または「NAT」を選択した場合に入力することができます。

広告するポート番号を指定します。通常は22を指定してください。

ポート番号	<input type="text"/>
-------	----------------------

[secondary]

「モード」で「インタフェース」を選択した場合に設定することができます。

アドレス family

プルダウンから、「IPv4」/「IPv6」を選択します。

アドレスfamily	(指定しない) ▼
	(指定しない)
	IPv4
	IPv6

インタフェース

プルダウンから、インタフェースを選択します。

選択可能なインタフェースは、下記のとおりです。

「ethernet0」/「ethernet1」/「ethernet2」

「ppp0」/「ppp1」/「ppp2」/「ppp3」

インタフェース	指定しない ▼
	指定しない
	ethernet0
	ethernet1
	ethernet2
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4

ポート番号

広告するポート番号を指定します。通常は22を指定してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. CRP クライアント

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

ユーザインタフェース

CRP

・CRP クライアント

CRP クライアント

number	アドレス	ポート番号	ユーザ名	Keepalive	編集	削除
(未設定)						

追加

「追加」をクリックします。

number

クライアントの設定番号を、プルダウンから選択します。1または2を指定してください。

number: 1

アドレス

管理サーバのアドレスを設定します。「IPv4」 / 「IPv6」 / 「FQDN」形式で入力してください。

アドレス

ポート番号

ポート番号を設定します。1024-65535の数値を入力してください。デフォルト値は、10625です。

ポート番号: 10625

ユーザ名

CRPのリクエストメッセージに使用するユーザIDを使用します。

ユーザ名

パスワード

認証に使用するパスワードを設定します。

パスワード

Keepalive

CRP登録に成功してから、次にCRP登録を試行するまでの時間を指定します。デフォルト値は0で、CRP登録の再試行はしません。

Keepalive: 0

第 10 章

システム設定

システム設定

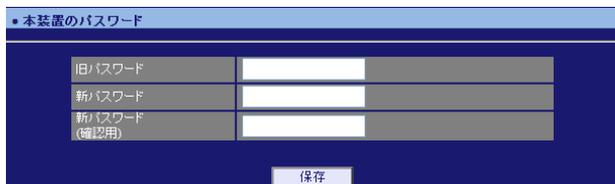
本装置のパスワード

本装置の設定画面にログインする際のユーザ名、パスワードを変更します。
ルータ自身のセキュリティのためにパスワードを変更されることを推奨します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
システム設定

- ・本装置のパスワード

本装置のパスワード



旧パスワード

現在のパスワードを入力します。

新パスワード

半角英数字で1 から 15 文字まで設定可能です。
大文字・小文字も判別しますのでご注意ください。

新パスワード (確認用)

確認のため再度「新パスワード」を入力してください。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

本装置の操作を続行すると、ログイン用のダイアログ画面がポップしますので、新パスワードで再度ログインしてください。

ホスト名

本装置のホスト名を設定します。

ホスト名



設定を保存するには、「保存」をクリックします。

2. ログメール

ログの内容を電子メールで送信したい場合の設定です。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

ログ

・ログメール

ログメール

メール送信	使用しない ▼								
宛先メールアドレス									
送信元メールアドレス									
件名									
検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>(未設定)</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除		(未設定)		
	番号	検索文字列	編集	削除					
	(未設定)								
追加									
保存									

メール送信

「使用する」「使用しない」をプルダウンから選択します。

メール送信	使用しない ▼ 使用しない 使用する
-------	--------------------------

宛先メールアドレス

ログメッセージの送信先メールアドレスを指定します。最大文字数は64文字です。

送信元メールアドレス

送信元のメールアドレスは任意で指定できます。最大文字数は64文字です。

件名

任意で指定できます。使用可能な文字は半角英数字で、最大64文字です。

検出文字列

ここで指定した文字列が含まれるログをメールで送信します。文字列を指定しない場合はログメールは送信されません。

検索文字列の設定

検出文字列を設定するには、「追加」をクリックします。

番号		
検索文字列		
保存		

番号

1-32の間で指定します。

検索文字列

検出文字列には、pppd、IP、DNSなどログ表示に使用される文字列を指定してください。なお、文字列の記述に正規表現は使用できません。文字列は、半角英数字で128文字まで指定できます。空白・大小文字も判別します。

複数の文字(文字列)を指定すると、その文字(文字列)に完全一致したログのみ抽出して送信します。

設定を保存するには、「保存」をクリックします。

検索文字列の編集

「編集」をクリックします。

検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>pppd</td> <td>編集</td> <td>削除</td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除	1	pppd	編集	削除
	番号	検索文字列	編集	削除					
1	pppd	編集	削除						
追加									

検索文字列の削除

「削除」をクリックします。

検出文字列	非表示								
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>検索文字列</th> <th>編集</th> <th>削除</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>pppd</td> <td>編集</td> <td>削除</td> </tr> </tbody> </table>	番号	検索文字列	編集	削除	1	pppd	編集	削除
	番号	検索文字列	編集	削除					
1	pppd	編集	削除						
追加									

第10章 システム設定

設定情報

1. 設定の保存

設定の保存をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
設定情報
・設定の保存

設定の保存

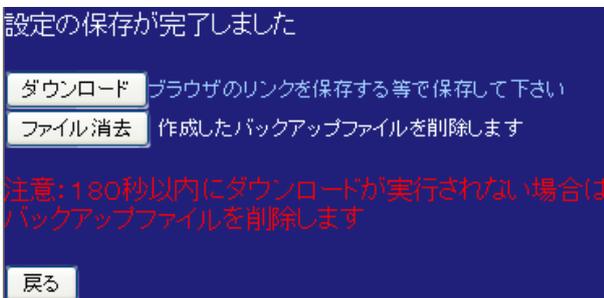


ファイル形式

プルダウンから「config設定(xml)」/「全ての設定(tgz)」を選択します。



「実行」をクリックします。



ダウンロード

ブラウザのリンクを保存する等で、設定ファイルを保存することが出来ます。

ファイル消去

「ファイル消去」をクリックすると、作成したバックアップファイルを削除します。

2. 設定の復帰

設定の復帰をおこないます。

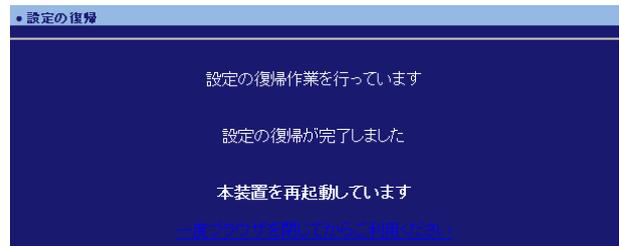
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定
設定情報
・設定の復帰

設定の復帰



「参照」をクリックして、ファイルを指定します。「実行」をクリックすると、設定の復帰作業がおこなわれます。



設定の復帰が完了すると、本装置が自動的に再起動します。

3. 設定のリセット

設定をリセットします。

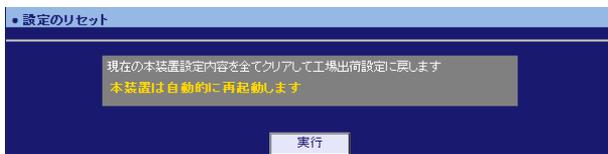
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

設定情報

・ 設定のリセット

設定のリセット



「実行」をクリックすると、現在の本装置設定内容を全てクリアして工場出荷設定に戻します。本装置は自動的に再起動します。

本装置の工場出荷設定状態時では、HTTP サーバが起動していないため、GUI アクセスは出来ません。HTTP サーバの起動方法については、「第4章 設定画面へのログイン」を参照してください。

1. ファームウェアアップデート

ファームウェアをアップデートします。

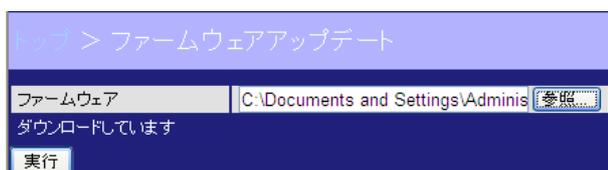
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

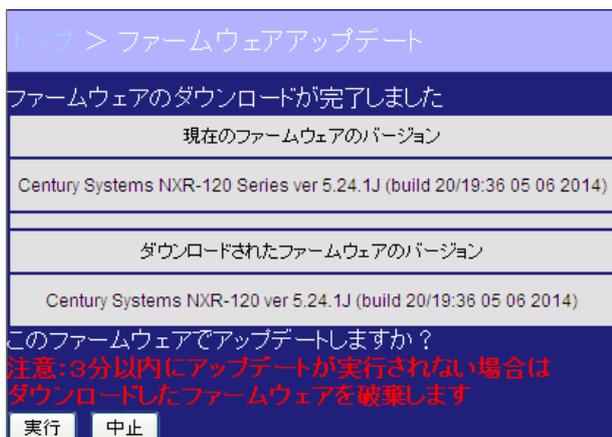
ファームウェア

・アップデート

アップデート

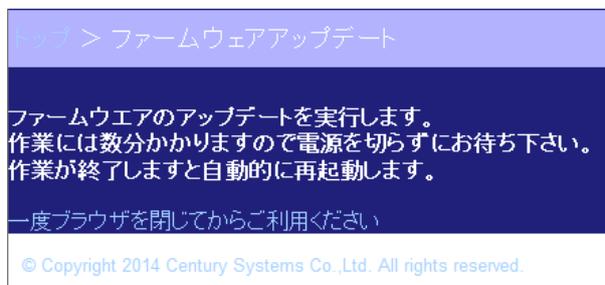


「参照」をクリックして、ファームウェアを指定します。「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデート画面が表示されます。



「実行」をクリックすると、ファームウェアのアップデートを開始します。すべてのサービスおよびパケット処理を停止します。

アップデートを開始すると、下記の画面が表示されます。



ファームウェアのアップデートが終了すると、本装置が自動的に再起動します。

ファームウェアアップデートの詳細については、ユーザーズガイド CLI 編を参照してください。

システム設定

内蔵時計

内蔵時計の設定をおこないます。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

- ・内蔵時計

内蔵時計



24時間単位で時刻を入力してください。

「保存」をクリックすると、時刻が設定されます。

再起動

本装置またはサービスを再起動します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

- ・再起動

再起動



プルダウンから、再起動するサービスを選択します。選択可能な項目は、「本装置」「DHCPサーバ」「DHCPリレー」「DNS」「WarpLink」「NTP」です。

「実行」をクリックすると、選択したサービスが再起動します。本装置を選択した場合は、本装置が再起動します。

セッション数

セッション最大数を設定します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

システム設定

・セッション数

セッション数



セッション数	
セッション最大数	32768
<input type="button" value="保存"/>	

セッション最大数を、4096-32768の範囲で指定します。初期値は、4096です。

「保存」をクリックすると、指定した値が保存されます。

第 11 章

運用機能

1. Ping

指定した宛先に対して、本装置から Ping を実行します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ネットワーク診断

・Ping

Ping

送信先

FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくは IP アドレスを入力します。

送信回数

送信する ping パケット数を指定します。
1-10 の範囲で指定します。デフォルト値は 10 です。

「送信先」および「送信回数」を指定して、「実行」をクリックします。

2. Traceroute

指定した宛先までに経由するルータ情報を表示します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ネットワーク診断

・Traceroute

Traceroute

送信先

FQDN(www.xxx.co.jp などのドメイン名)、もしくは IP アドレスを入力します。

「送信先」を入力して、「実行」をクリックします。

1. パケットダンプ

1. パケットダンプ

パケットのダンプを取得します。

GUI 画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

パケットダンプ

・パケットダンプ

実行

> パケットダンプ	
インタフェース	(選択して下さい) ▾
パケット数	10
880番ポートの通信	ダンプしない ▾
出力先	画面 ▾
実行	

インタフェース

ダンプを取得するインタフェースをプルダウンから選択します。

インタフェース	(選択して下さい) ▾
	(選択して下さい)
	ethernet0
	ethernet1
	ppp0
	ppp1
	ppp2
	ppp3
	ppp4
	bridge
	tunnel

パケット数

キャプチャするパケット数を、1-1000 の範囲で指定します。デフォルト値は 10 です。

880 番ポートの通信

「ダンプする」 / 「ダンプしない」をプルダウンから選択します。

880番ポートの通信	ダンプしない ▾
	ダンプしない
	ダンプする

出力先

出力先をプルダウンから選択します。

出力先	画面 ▾
	画面
	ファイル

「実行」をクリックします。

「出力先」として「画面」を選択した場合は、実行結果が画面に表示されます。

```

> パケットダンプ
14:08:42.178255 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [..], ack 1197510287, win 65535
14:08:42.179295 IP 192.168.0.1.3868 > 192.168.0.254.880: Flags [..], ack 2920, win 65535
14:08:42.179565 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [..], ack 1, win 6432, len 1
14:08:42.180311 IP 192.168.0.1.3868 > 192.168.0.254.880: Flags [..], ack 5840, win 65535
14:08:42.180545 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [..], ack 1, win 6432, len 1
14:08:42.180631 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [P..], ack 3198264020, win 65535
14:08:42.180799 IP 192.168.0.1.3868 > 192.168.0.254.880: Flags [..], ack 8760, win 65535
14:08:42.181547 IP 192.168.0.1.3868 > 192.168.0.254.880: Flags [..], ack 308, win 65535
14:08:42.182126 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [P..], ack 1, win 13608, len 1
14:08:42.182629 IP 192.168.0.254.880 > 192.168.0.1.3868: Flags [P..], ack 1, win 13608, len 1
    
```

． パケットダンプ

2. パケットダンプ結果表示

「出力先」として「ファイル」を選択した場合は、「結果表示」からファイルを取得します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

パケットダンプ

・パケットダンプ結果表示

結果表示

[パケットダンプ取得中の表示例]



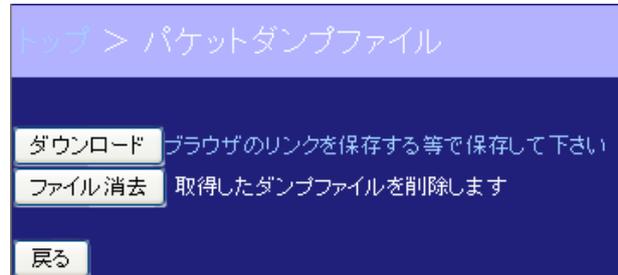
現在の状態を表示するには「更新」をクリックします。

パケットダンプを中止するには「中止」をクリックします。

[パケットダンプ取得終了の表示例]



ファイルを取得するには「取得」をクリックします。



ダウンロード

ブラウザのリンクを保存する等で、ダンプファイルを保存することが出来ます。

ファイル消去

「ファイル消去」をクリックすると、取得したダンプファイルを削除します。

1. システムログ

システムログを表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ログ情報

・システムログ

システムログ



出力先

システムログの出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

2. ブートログ

ブートログを表示します。

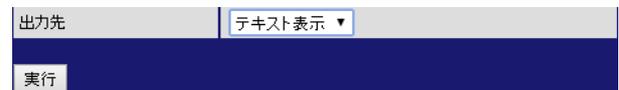
GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

ログ情報

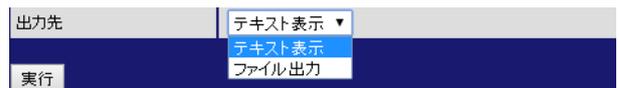
・ブートログ

ブートログ



出力先

ブートログの出力先をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックします。

システム情報

1. システム情報

システム情報を表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

システム情報

・システム情報

システム情報



出力情報

出力情報をプルダウンから選択します。



「実行」をクリックすると、選択した情報が表示されます。

2. システムモニター

システム情報をグラフで表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。

運用機能

システム情報

・システムモニター

システムモニター



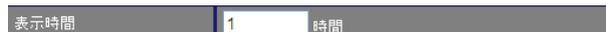
表示情報

表示情報をプルダウンから選択します。



表示時間

表示時間を入力します。1-12[時間]の間で指定します。デフォルト値は、1[時間]です。



自動更新

「有効」/「無効」をプルダウンから選択します。



更新間隔

更新間隔を入力します。1-60[分]の間で指定します。デフォルト値は、「なし」です。



「実行」をクリックすると、選択した情報が表示されます。

第11章 運用機能

サポート情報

テクニカルサポート

テクニカルサポート情報の表示、または取得を行います。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能

システム情報

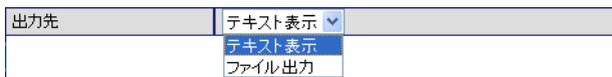
・テクニカルサポート

テクニカルサポート

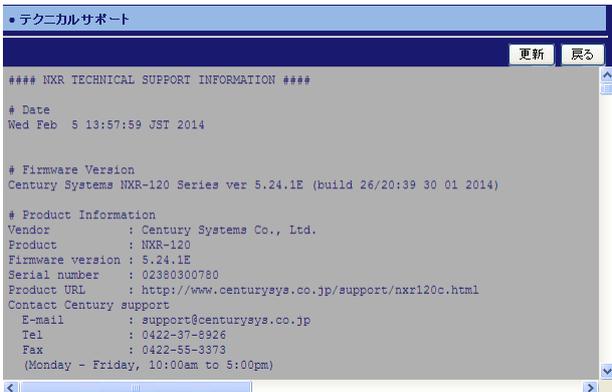


出力先

出力先をプルダウンから選択して、実行をクリックします。



「テキスト表示」を選択した場合は、テクニカルサポート情報が表示されます。



「ファイル出力」を選択した場合は、下記の画面が表示されます。GUIの指示に従ってください。



サポート情報

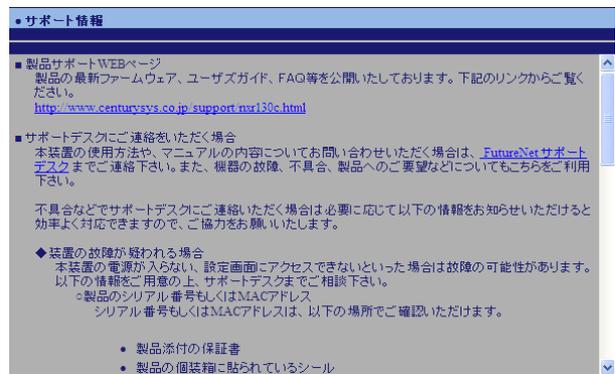
サポート情報を表示します。

GUI画面のメニューを下記の順にクリックします。
運用機能

・サポート情報

サポート情報

サポート情報が表示されます。



付録

サポートについて

サポートについて

今後のお客様サポートおよび製品開発の参考にさせていただくために、ユーザー登録にご協力をお願い致します。弊社ホームページ内の各製品のサポートページで「ユーザー登録」をクリックすると登録用の画面が開きます。

サポートに関する技術的なお問い合わせやご質問は、下記へご連絡ください。

・サポートデスク

e-mail : support@centurysys.co.jp

電話 : 0422-37-8926

FAX : 0422-55-3373

受付時間 : 10:00 ~ 17:00 (土日祝祭日、および弊社の定める休日を除きます)

・ホームページ <http://www.centurysys.co.jp/>

故障と思われる場合は

製品の不良や故障と思われる場合でも、必ず事前に弊社までご連絡ください。

事前のご連絡なしに弊社までご送付いただきましてもサポートをお受けすることはできません。

ご連絡をいただく前に

スムーズなお客様サポートをご提供するために、サポートデスクにご連絡いただく場合は以下の内容をお知らせいただきますよう、お願いいたします。

- ・ファームウェアのバージョンとMACアドレス
- ・ネットワークの構成(図)
どのようなネットワークで運用されているかを、差し支えない範囲でお知らせください。
- ・不具合の内容または、不具合の再現手順
何をしたときにどのような問題が発生するのか、できるだけ具体的にお知らせください。
- ・エラーメッセージ
エラーメッセージが表示されている場合は、できるだけ正確にお知らせください。
- ・本装置の設定内容、およびコンピュータのIP設定
- ・可能であれば、「設定のバックアップファイル」をお送りください。

サポート情報

弊社ホームページにて、製品の最新ファームウェア、マニュアル、製品情報を掲載しています。

また製品のFAQも掲載しておりますので、是非ご覧ください。

下記のFutureNetサポートページから、該当する製品名をクリックしてください。

<http://www.centurysys.co.jp/support/>

製品の保証について

本製品の保証期間は、ご購入から販売終了後5年間までです。

(但し、ACアダプタ及び添付品の保証期間はご購入から1年間とします。)

保証期間内でも、保証書に販売店印のないもの(弊社より直接販売したものは除く)、また保証の範囲外の故障については有償修理となりますのでご了承ください。

保証規定については、同梱の保証書をご覧ください。

FutureNet NXRシリーズ ユーザーズガイド GUI編 Ver.5.24.1J対応版

2014年06月版

発行 センチュリー・システムズ株式会社

Copyright (c) 2009-2014 Century Systems Co., Ltd. All rights reserved.
